大阪市立自然史博物館館報

10

（昭和54～55年度）

〒546　大阪市東住吉区長居公園１－23

大 阪 市 立 自 然 史 博 物 館

昭和57年２月25日発行

目　次

展覧事業 …… 1
調査研究事業 …… 7
資料収集保管事業 …… 19
普及教育事業 …… 28
庶務 …… 31

展覧事業

自然史博物館の常設展示は，①自然界の多様性，②多様な自然物の歴史性，③人間と自然の関係の発展史，の3本の軸に沿って，日常生活の身近にあるもの，地域的には大阪という舞台に始まって，縁遠く思えるものやグローバルな視野へひろげる形で構成されるべきであろう。昭和49年開館時点の展示はこれを目指したものであったが，館の力量不足のため，不十分なものに終った。そこで毎年，小規模な展示品の充実や解説の更新を行っているが，10年とか15年とかの近未来に，根本的な展示替えをすべきであろう。

特別展（企画展）は年1回，館の調査研究と資料収集の成果を市民に問う形で開いている。地元大阪の自然を主題にしたシリーズと，そうでないものの2シリーズあるが，昭和54年度，55年度ともに後者を主題に企画した。55年度の「象狩をした人たち」展は，野尻湖発掘調査団との共催であったが，これに加えて展示づくりを阪神わかやま野尻湖友の会と協力して行う等，いずれも当館として始めての試みで行った。

Ⅰ　常設展

昭和54・55度年の両年において，下記の改陳・充実・補修等を行った。

■　昭和54年度

●第1展示室

1E．「町の生物・村の生物」

大阪の水田付近で普通にみられる蛙6種（ウシガエルの親と子，トノサマガエル，ダルマガエル，ヌマガエル，ツチガエル，アマガエル）のレプリカを作り，展示に加えた。

2A．「大阪の植生」

大阪の植生図が退色のため見にくくなり，かつ若干改訂すべき点も生じたので，植生図パネル・解説パネルともに全面的に作りなおして展示した。

●第2展示室

7A．「古象のあゆみ」

先に展示していた毛サイとナウマンゾウの頭骨の展示台を作成した。また，マチカネワニ，アカシゾウ，ゴンフォテリウム，デスモスチルスの4点について，従来の解説台が小さすぎたので，それぞれ種名の表示と説解台を大きく作りかえた。

10D．恐竜時代の生物

開館にあたり購入しながら，スペースの関係で展示できていなかったステノプテリギウス（魚竜）のレプリカ（西ドイツ・ジュラ紀）を，2展出口階段横の壁面に取り付け展示した。

■　昭和55年度

●玄関ホール　ナウマンゾウの展示台を補修した。

●第1展示室

1A・1Cの「港に入った虫やサソリ」ほか5枚の解説プレートを，よごれていたので新しく製作しとり替えた。そのほか1B「風に運ばれる虫」の展示枠塗装，2A「大阪の植生」の樹木展示のコーナーに手すりをとりつけ，4B「地下にねむる化石」の展示ケース枠塗装を行った。

●第2展示室

8.「瀬戸内海の生いたち」

1975年度の特別展「二上山展」以来，常設展にくみこまれた二上山の地質の展示を充実させた。地質模型の表示板で欠けているものを補充し，代表的な岩石を研磨して展示し，岩石の剝片の顕微鏡写真を5枚カラーコルトン（カロラマ）で示した。

そのほか，マチカネワニの発掘と大阪層群の露頭のカラーコルトンの写真を新しくし，10Cの三畳紀植物化石の，アクリルカバーを更新した。

●第3展示室

12A　「種子散布のしくみ」

これまで種子植物の展示の導入部として，「陸の開拓者」のテーマで，植物の系統図や化石を展示していたが，これが観客に理解し難いと判断されたので「種子散布のしくみ」のテーマで展示を全面的に変更した。

13「生命の糧，食物」

13E「新大陸で得たもの」のコーナーを拡大して，新たにサツマイモの展示を加え，充実をはかった。そのため，13D「日本には何があったか」のコーナーのスペースがせまくなった。

そのほか，樹木標本の標示板で欠けたものを補充し，インドゾウの展示解説板を新調し，ギャラリーの「リュウグウノツカイ」の解説板を新設した。

Ⅱ　特別展

■　第6回特別展「たねと実の世界」（昭和54年度）

植物のたねや実は自然の中でいろんなものとかかわり，動いていく。そして新しい土地に着き，発芽したものが次の世代をになっていく。たねと実をめぐる自然界のさまざまなできごと，たねと実が自然界で果している役割をまとめたのがこの特別展である。また，たねと実は人間にとっては大切な毎日のたべものであり，嗜好品であり，薬品であり，ときに衣服の原料であり，楽器であり，容器であり，装身具や愛玩用のかざりでもあった。たねと実の人間との直接的なかかわりについては常設展と重複しないよう，あまり知られていない面をとりあげるように配慮した。

●期間：昭和54年9月16日（日）～10月31日（水）

●主な内容

イントロダクション

クルミをいちばん上手に割るのは誰か，イネの穂，仏手柑

人間にとってのたねと実

世界の野生イネ

Oryza glaberrima など15種

めずらしい穀物

ホウキギ（とんぶり），キノア，センニンコク，テフ，ハングリーグラスなど16種

食べられるナッツ

アーモンド，ペカン，カシューナットなど15種

薬になるたねと実

ホミカ，浜榔子，益智，ハクズクなど50種

とちもち

トチノキとその実，たね，とちもちつくりに使われる民具など。

たねと実でつくったネックレス，ブローチ，じゅず，玩具など。

ワタ，キワタなど繊維を利用するたねと実と，毛織物加工に使われる実チーゼル。

ひょうたんとふくべ，乾燥果実と加工品

遺跡から出たフクベの種子　東大阪市鬼虎川遺跡から出た種子と果実の一部分

ココヤシの実と実生（生品）

ヤシのなかま　ゾウゲヤシなど8種の果実

実のようで実でないもの

五倍子など虫えい，菌えいと，ムカゴなど。

まつかさのいろいろ

北米産の巨大なまつかさなど22種

花から実へ

モモの模型を例にして果実と種子のできかたを説明

イチヂクのなかまの実

コバチによる複雑な花粉媒介を例にして昆虫との共同進化をみる。アコウなど6種

小さいたね

顕微鏡でギンリョウソウモドキ，カヤラン，ヤセウツボの小さい種子をみる。

大きいたね

世界最大の種子オオミヤシの皮つきと裸の種子

発芽孔

ココヤシ，ヤタイヤシの核の断面，チャンチンモドキの核と実生，オニバスでじょうぶな種皮で包まれた種子の発芽孔をみる。

埋土種子

雑木林の林床の埋土種子

ノギの乾湿運動で自分で土にもぐるカラスムギ

昆虫とたねと実

アズキなどマメを食害するマメゾウムシ類の標本

ツバキの果実，種子を食害するツバキシギゾウムシ

トゲと果実

クリ，シナグリのイガと実，コジイ，マロニエ，ドリアン，オニバスなどトゲのある果実とその意味

芽生えのいろいろ

槇山浅子氏出品90種

熱帯の果実

バオバブ，ホウオウボク，ベニノキなど25種

鳥と果実

鳥にたべられてたねが運ばれるムラサキシキブなど20種のたねと実

鳥やケモノの糞と，その中の種子

ヒヨドリの糞の中の種子――ヒヨドリの果実歴

キジバトの砂のう，糞の中の種子

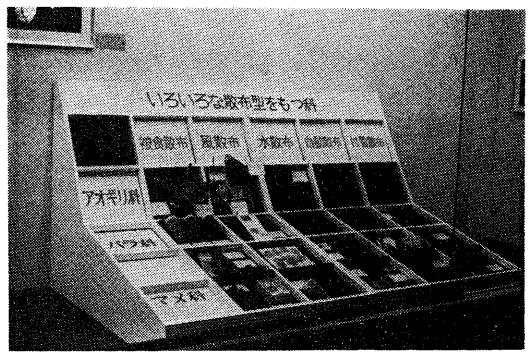
テンの糞とケケンポナシなどの種子

カラスの糞

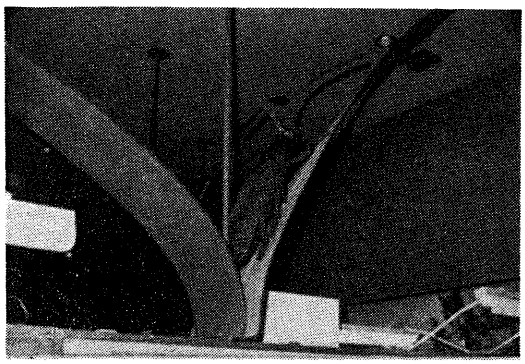
チョウセンゴヨウの食べかすと球果，種子

草食のけものと種子

（昭和54年度特別展「たねと実の世界」）



（昭和54年度特別展「たねと実の世界」）



（昭和55年度特別展「象狩りをした人たち」）
ネクイハムシの100倍模型（撮影坂本隆彦氏）

イヌビユ，エノコログサなど5種

アリ散布

アリに運ばれる種子ムラサキケマンなど10種

ひっつきむし

キンミズヒキなど花序の状態を示す大型のおしば標本5点とそれらが付着したタヌキの毛皮　6種の種子を虫めがねでみる。大型のひっつきむしツノゴマ

たねをばらまくしくみ

いろいろな散布形式のたねと実21種

風散布

さっ果の構造と種子　30種

微細種子　ウツボカズラなど6種

はねのあるたねと実　フタバガキなど100種

水散布

水で運ばれるタネと実　50種

海流散布　ココヤシなどと海岸の打上物中の種子マングローブ，オヒルギなど

沈む種子と浮く種子

自動散布

はじける種子　カタバミなど15種

いろいろな散布型をもつ科の果実の適応放散

アオギリ科，バラ科，マメ科，計30種

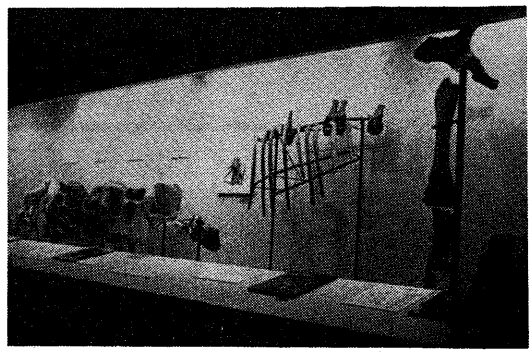
〔付〕中井明氏がシンガポールで集めたパラダイスナットなど熱帯の果実10種

●出陳点数　計 630点

●動く展示の試み

今回の特別展で特筆すべきことは当館電気機械関係技術陣等各種職員の協力を得て2つの動く展示をとりいれたことである。

(1)タヌキの種子散布　動くタヌキのぬいぐるみを使って毛皮にひっつきむしが付着して運ばれること，糞の中に種子が入っていることなど，タヌキをめぐる種子



（昭和55年度特別展「象狩りをした人たち」）

散布を総合的に示した。

(2)風洞　ビニールシートと扇風機により簡単な風洞を作って風に運ばれるたねと実の飛ぶ様子を示した。

●実演コーナーの実施

期間中日曜日には学芸員による説明を行い，ベルモットなど各種果実の精油の香り，大海子の種子の吸水してふくれるところ，カラスムギのノギの運動，はじける果実の種子をとばすしくみなどを，会場で実演した。

●特別展解説パンフレット「たねと実の世界」の発行

種子の散布に重点をおき，前半の小学生を対象とした「あの実このたね」と，散布形式に従って組織的に解説した後半の2部構成とした。46頁。

■第7回特別展「象狩りをした人たち――ぼくらの野尻湖発掘――」（昭和55年度）

旧石器とナウマンゾウをはじめとする大型動物化石が，同じ地層から発掘されている日本で唯一の場所である野尻湖で，20年来続けられている野尻湖発掘の成果を展示した。また，専門家から子供達まで参加する「大衆発掘」と，それをささえている全国各地の「野尻湖友の会」の活動についても紹介した。特別展開催にあたっては，野尻湖発掘調査団と当館の共催，阪神わかやま野尻湖友の会協力という形をとった。

●期間：昭和55年8月24日（日）～10月26日（日）

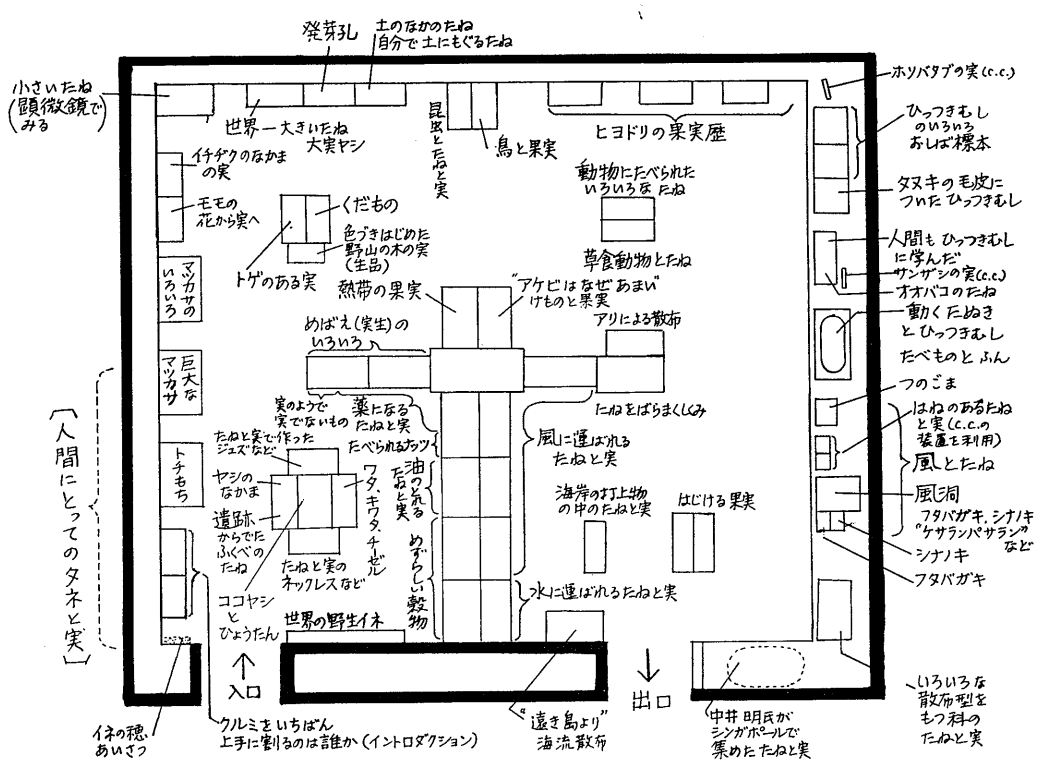
●主な内容

(1)　ナウマンゾウとオオツノシカ
(2)　ゾウ狩りをした人たち
(3)　野尻湖人がいたころ
(4)　地層に残された記録
(5)　氷河時代の日本
(6)　野尻湖発掘の歴史
(7)　野尻湖発掘総合表
(8)　野尻湖友の会

●特別展関連普及行事

「野尻湖展」の趣旨を，よりよく理解してもらうため，内容に関連した下記の行事を行った。

昭和54年度　第6回　特別展「たねと実の世界」平面図



講演会「野尻湖の発掘」　8月24日（日）午後2時～4時　於講堂　講師信州大学理学部講師　酒井潤一氏

講演と漫画教室　9月14日（日）午後1時～3時　於講堂　講師京都大学理学部教授　亀井節夫氏，漫画家伊東章夫氏（阪神わかやま野尻湖友の会と共催）

講演会「日本の石器時代」　10月12日（日）午後2時～4時　於講堂　講師国学院大学文学部講師　麻生優氏

●特別展パンフレット「象狩りをした人たち」の発行

野尻湖展の内容について，64ページのパンフレットを発行した。内容はできるだけわかり易く表現し，一問一答形式で記述した。執筆は，野尻湖発掘調査団が行った。

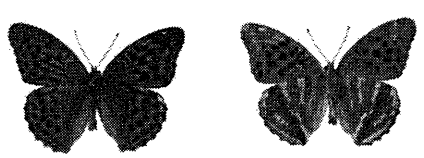
■特別展入館者数（昭和54年度～55年度）

種別＼年度	個人 大人	個人 小人	団体 大人	団体 小人	無料 幼・小中学生	合計	開催期間及び実開催日数
54	6,863人	6,037人	1,388人	12,821人	11,339人	38,448人	9/16～10/31
55	11,796	11,765	1,322	14,345	9,358	48,586	8/24～10/26

（54年度タイトル：「たねと実の世界」
55年度タイトル：「象狩りをした人たち―ぼくらの野尻湖発掘」）

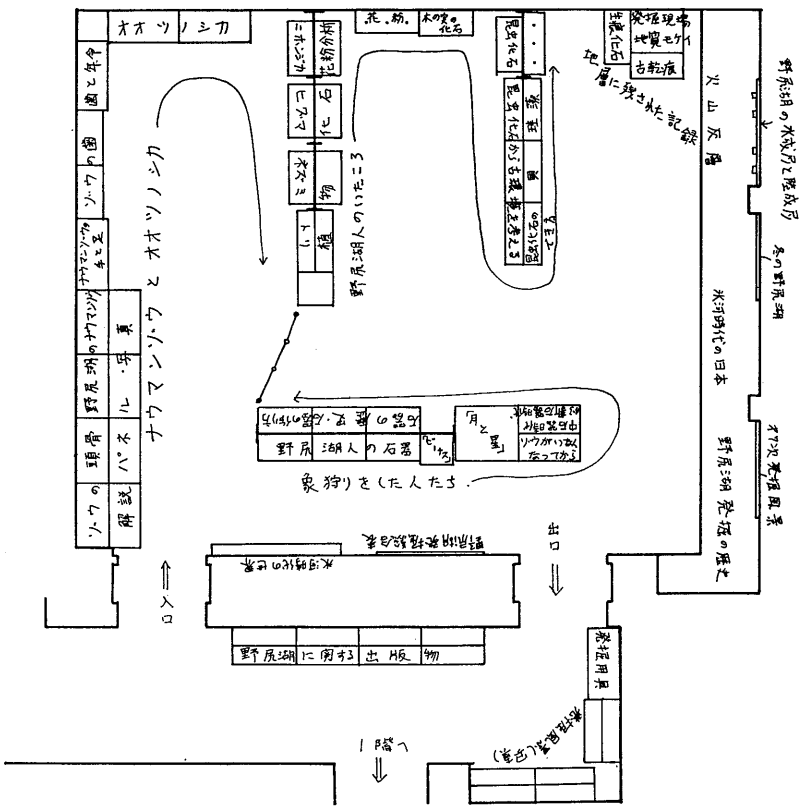
昭和54年度特別陳列

ミドリヒョウモン雌雄型



表面（左，雄；右，雌）　裏面（左，雌；右，雄）

昭和55年度　第7回　特別展「象狩りをした人たち」平面図



なお，この他に1階オリエンテーションホールにも，阪神わかやま野尻湖友の会を紹介する展示を行った。

Ⅲ　特別陳列

■　「熊野の植物写真展」（昭和54年度）

西南日本の外帯（太平洋側）には，この地域に特有の植物が多く，植物分布上襲速紀（そはやき）地域とよばれている。熊野地方はその代表的な場所の一つで，古来植物の宝庫として有名である。

新宮市在住の大洞浩一氏は，日頃当館の資料収集活動に協力して下さっているが，かたわら生態写真にもたんのうで地の利を生かし，余暇を利用して熊野地方の植物を熱心に探究し，多くの美しい作品を集積された。館では，はじめての試みとして同氏の作品から100点を選び，当館所蔵の標本とくみ合せて展示した。

●期　　間：昭和54年5月10日（木）～6月22日（金）
●場　　所：特別展示室
●展示内容：○黒潮にのってやってきた南の植物――ハマセンダン，ハマカズラ，ハマユウ，ハマボウ，ハマナタマメ，タイキンギク，ノアサガオ，イソフサギ，シラタマカズラ
○襲速紀地域に特有の植物――アサマリンドウ，オンツツジ，アワモリショウマ，トガサワラ，キノクニスズカケ，タチバナ
○温暖で空中温度の高いところに生えるシダ植物――オオハシゴシダ，ヒロハアツイタ，スジヒトツバ，ミゾシダモドキ，アミシダ，リュウビンタイ，ヒロハヒメウラボシなど。

■「宝塚昆虫館の標本・ヒマラヤのちょう・日本のヤドカリ展」（昭和55年度）

昭和54年度中に寄贈をうけた昆虫・動物を中心に，下記のような内容で，約1万点を展示した。

●期間　昭和55年3月22日（土）～4月27日（日）

●場所　特別展示室

●内容

(1) 宝塚昆虫館コレクション　阪急電鉄株式会社の好意で，宝塚ファミリーランド内にあって既に活動を停止していた「宝塚昆虫館」の昆虫標本約18,000点と，鳥の剝製約1,800点（ミシガン大学動物博物館旧蔵の北アメリカの鳥と故川村多実二氏旧蔵の日本の鳥）が当館へ移管されたが，その主なものを展示した。

(2) ヒマラヤの昆虫コレクション　昭和54年4月下旬から5月上旬にかけて，谷・土井・冨永・桂・加納・春沢・馬野・宮武の諸氏がネパールのカトマンズ周辺で採集した標本と，追手門学院大学の西川喜朗氏が同年9月から11月にかけてヒマラヤ山中で採集した標本，あわせて約5,000点を展示した。チョウ・バッタ・セミ・トンボ・糞虫などが多く，ヒマラヤムカシトンボの成虫（2頭）は，世界でも3頭目と4頭目にあたる。

(3) ラダックの蝶コレクション　豊田市の寺村重一氏が，昭和54年8月に，北部インドの奥地のラダック高地で採集した高山蝶のコレクションで，カルトンウスバアゲハなど多くの珍種を含む800点を展示した。

(4) 日本のハチ・コレクション　ハチの生活史の研究家である交野市の佐藤納氏のハチのコレクションの一部で，約1,600点を展示した。

(5) ミドリヒョウモンの雌雄型　西宮市の松野千里氏が昭和54年7月に能勢の妙見山で採集された標本で，左がオス，右がメスの完全な雌雄型である。オス・メスの各正常型と並べて展示した。

(6) 日本のヤドカリコレクション　京都大学理学部の今福道夫氏が，1975年から日本各地で集められたヤドカリ，65種363点を展示した。紀伊半島沿岸が中心であるが，沖縄産と南方のものも含まれる。
そのほか，仲田元亮氏（大阪市西成保健所―当時）による能勢のハチ・コレクション（約500点），小原明男氏（十三市民病院）の撮影した能勢の昆虫のカラー写真（約20点）もあわせて展示した。

Ⅳ　出版・印刷物

名　　称	対象	規格	ページ数	備　考
ケモノと恐竜の化石（展示解説第6集）	一般市民	B5	40P	1980.6.20発行（有料400円）
リーフレットNo.60～81 （No.60）植生図 （No.61）ゾウの歯のいろいろ （No.62）バナナのたね （No.63）ドリアン （No.64）マンモスゾウ （No.65）たねと実の世界 （No.66）家の中で冬を越すフクラスズメ （No.67）恐竜の卵 （No.68）ハイガイ（灰貝） （No.69）フジツボ （No.70）サヌカイト （No.71）コノハチョウ （No.72）ノコギリエイ （No.73）ウバユリ （No.74）オキナエビスの化石 （No.75）ハルゼミ （No.76）カレー粉をつくる植物 （No.77）象狩りをした人たち （No.78）大阪府の植生 （No.79）海へかえった「はちゅうるい」 （No.80）日本原産の野菜 （No.81）暖かさの指数	入館者	B5	2P（一葉）	毎月1～2号あて（無料）
◦たねと実の世界（特別展解説書）	一般市民	B5	46	1979年9月（有料400円）
◦象狩りをした人たち（特別展解説書）―ぼくらの野尻湖発掘―	〃	〃	〃	1980年8月（有料450円）

Ⅴ　入館者数（庶務の項P35あり）

調査・研究事業

自然史博物館の研究活動は，①学芸員の個人テーマ，②研究室単位のテーマ，③館全体のテーマ，の三つのレベルにわけて考えるべきであろう。③については文部省科学研究費補助金の申請を，館長を研究代表者とし，「大阪平野の形成過程とそれにともなう照葉樹林生物相の史的変遷」という課題のもとに昭和52年度以来55年まで継続して行ったが，不採択に終った。二，三の研究室間で研究協力が行われた。

Ⅰ　研究体制

学芸系のスタッフは，すべて学芸課に所属し，5部門の研究室において，研究業務を行っている。館長も研究者という立場上は，地史研究室に所属している。

地史研究室	千地万造（Manzo CHIJI）	学芸員①
	両角芳郎（Yoshiro MOROZUMI）	学芸員
	石井久夫（Hisao ISHII）	学芸員
第四紀研究室	那須孝悌（Takyaoshi NASU）	学芸員
	樽野博幸（Hiroyuki TARUNO）	学芸員
動物研究室	柴田保彦（Yasuhiko SHIBATA）	学芸員③
	山西良平（Ryohei YAMANISHI）	学芸員
昆虫研究室	日浦　勇（Isamu HIURA）	学芸員②
	宮武頼夫（Yorio MIYATAKE）	学芸員③
植物研究室	瀬戸　剛（Ko SETO）	学芸員③
	岡本素治（Motoharu OKAMOTO）	学芸員
	布谷知夫（Tomoo NUNOTANI）	学芸員

①館長　②学芸課長　③主任学芸員

Ⅱ　個別調査研究（昭和54年度～55年度）

千地万造（地史研究室）

(1)　西太平洋地域における新第三系の生層序基準面の評価を行い，対比に有効な基準面を設定し，その放射年代を推定～決定した。（池辺展生の共同）

(2)　第25回国際地質学会議（IGC）に参加，IGCP—114第5回国際ワーキング・グループ委員会（パリ）に出席し，今後の研究方針をとりまとめると共に，IGCP—24との意見交換・連絡を行った。

(3)　ウルム氷期の朝鮮海峡の海況を明らかにする目的で東京大学海洋研究所・丹青丸によって「対馬海峡およびその東方海域の地質」に関する調査・研究を行った。共同研究者：岡本和夫（広島大），山内靖喜（島根大），紺田功（奈良高），石井久夫（大阪・自然史博），井ノ口博夫（神戸大），林田明（京都大・院生），石垣武久（名古屋大・院生）

(4)　紀伊半島南部那智地域新第三系の生層序とくに *Orbulina* Datum について資料採取と研究を行った。共同研究者：土隆一，茨木雅子（静岡大），斉藤常正（山形大），両角芳郎（大阪・自然史博）

(5)　上町累層および相当層の化石有孔虫群集の特性について調査研究を行った。

両角芳郎（地史研究室）

(1)　和泉層群の化石層序学的研究

・和泉山脈産アンモナイトの分類学的・生層序学的研究を行い，その結果を当館研究報告33号に発表した（西南学院大松本達郎教授と共同）。

・和泉山脈産のサメの歯化石を調べ，5科5属6種を識別し報告した（土岐高校西本博行氏と共同）。

・和泉層群産有孔虫化石の研究（別掲）。

・和泉山脈産の大型三角貝化石の生層序学的意義について考察し，当館研究報告34号に発表した。

・淡路島および鳴門産ブラビトセラスの分類学的研究と，産出層準の現地調査を行った（松本達郎ほか3名と共同）。

(2)　北陸・山陰沖の海底地質および古生物学的研究

東京大学海洋研究所淡青丸利用研究として標記題目の研究（主任：富山大学藤井昭二）が行われ，航海（1979年5月21日～5月28日）に乗組むとともに，採集した試料中の有孔虫化石を調べた。

石井久夫（地史研究室）

(1)　東大海洋研・淡青丸の航海に参加し，日本海南西部の海底堆積物を採集した（54年度）。

(2)　長崎県佐世保市泉福寺洞穴遺跡の発掘調査に参加し，遺物包含層の検討と洞穴の成因について調査した。また，それに関連して佐世保市～北松浦郡周辺の段丘の調査をおこなった（54年度）。

(3)　千葉県北部成田層の古環境調査。成田層古環境団研のメンバーの一員として（54・55年度）。

(4)　長野県野尻湖周辺の層位学的研究（54年度）。

(5)　長野県野尻湖層産の貝化石調査および現生淡水貝調査（54・55年度）。

(6)　東大阪市鬼虎川遺跡の貝類遺体調査(54年度より)。

(7)　大阪市沖積層産カガミガイ化石の研究（55年度）。

那須孝悌（第四紀研究室）

(1)　シダ植物の胞子形態学的研究（瀬戸学芸員と共同研究）。

(2)　長野県野尻湖周辺の第四系花粉化石の研究（野尻湖花粉グループの一員として）。

(3)　京都市深泥池の地史に関する地質学的調査（深泥

池学術調査団の一員として）。

(4) ウルム氷期以降の古植生変遷に関する研究（科研費総研A）。

(5) 新潟県巻町大沢遺跡の層序・植物遺体・花粉に関する研究（科研費特定研「古文化財」）。

(6) ヒカゲノカズラ属の胞子形態に関する研究（科研費一般D）。

(7) サジオモダカ属の花粉形態に関する研究。

(8) 上町台地および河内平野の沖積層に関する層序・古環境および出土する植物遺体・花粉の研究。

樽野博幸（第四紀研究室）

(1) 備讃瀬戸産ナウマンゾウ化石の形態学的研究。（文部省科学研究費補助金奨励研究A）

(2) 長野県野尻湖周辺の第四紀哺乳類化石の研究。とくにナウマンゾウ。

(3) 大阪市およびその周辺の遺跡に関する層序・古環境および出土する動物遺体の研究（東大阪市鬼虎川遺跡，同新家遺跡，八尾市亀井遺跡）

柴田保彦（物動研究室）

(1) 西日本島嶼の両生爬虫類相

平戸諸島四島の現地調査を行った。甑島列島の本類については概要を発表した。

(2) 大阪府下産両生爬虫類相（継続）。

山西良平（動物研究室）

54年度

(1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究。山口，高知，徳島県の海岸から試料を収集。西日本産サシバゴカイ科の1新種を報告した。

(2) 大阪湾の多毛環虫相に関する研究。当館に保存されている標本を同定し，1960年前後に棲息していた25種を報告した。

55年度

(1) 日本産間隙生多毛類の分類学的研究。北海道，宮崎，鹿児島，沖縄県の海岸から試料を収集。オトヒメゴカイ科2属についての研究を進めている。

(2) 大阪湾沿岸の潮間帯生物相に関する研究。大阪湾海岸生物研究会として，府下岬町から和歌山市加太にいたる8個所の岩礁海岸に生息する生物種の現状を調査し，この海域における，生物相の外海から内海への移行的性格を明らかにした。

日浦　勇（昆虫研究室）

(1) 日本列島昆虫相の形成過程の研究

「生物地理総研」（昭54），特定研究「古文化財」（昭55），および野尻湖発掘に参加して若干の発展があった。

(2) アゲハチョウ科の進化の研究

(1)と関連しつつ，系統分岐像の確立なくしてフォーナの形成論も進展しないであろうという考えのもとに，アゲハチョウ科を材料として分岐学的手法による系統進化の研究に着手し，ウスバアゲハ亜科についてアウトラインを把握した。

宮武頼夫（昆虫研究室）

(1) 日本産キジラミ類・コナジラミ類の分類と生活史の研究。

エノキカイガラキジラミに近縁の新種が発見され，昭和55年3月に記載発表し，その後分布を詳しく調査した。コナジラミ類については，日本産64種の総目録を作り，既知の分布や寄主植物などを詳述した。また，昭和51年10月～52年1月にかけて行った九州（長崎・鹿児島）・四国（高知・香川）のコナジラミ相の調査結果を報告した。

(2) 外国産キジラミの分類学的研究。

昭和54年4月下旬～5月上旬，ネパールのカトマンズ周辺でキジラミの調査を行った際得られた標本について，第1報を発表した。

(3) 近畿地方の同翅類の分布と生活史の研究。

近畿地方に分布する種類をまとめるため，「近畿の同翅類」という解説シリーズを，Nature Study誌上で昭和55年3月からはじめ，ツノゼミ類を26(3)に，ハゴロモ類を26(10)に発表した。

(4) 昆虫化石・昆虫遺体の研究。

長野県野尻湖の発掘によって得られる昆虫化石について，野尻湖昆虫グループとして研究している。また，大阪市内の遺跡（鬼虎川遺跡や亀井遺跡）をはじめ，各地の遺跡の発掘に伴って得られる昆虫遺体についても研究している。

瀬戸　剛（植物研究室）

(1) シダ植物の分類学的研究。前年度から継続中。

(2) シダ植物胞子形態の研究（那須学芸員と共同研究）。54年度はイワヒバ属について行った（研究報告33号に発表）。

(3) 紀伊半島のシマユキカズラについての研究。日本本土のフロラにシマユキカズラ属を新に加えた（南紀生物23(1)に発表）。

岡本素治（植物研究室）

(1) ブナ科植物の系統分類学的研究

ブナ科の花の形態解析を継続して行うとともに，ホンコン産 Castanopsis fissa の堅果および実生を

研究し，ブナ科ではこれまで知られていなかった型の子葉をもつことを明らかにした（研究報告33号に発表）。

(2) イヌビワの花粉媒介の機構についての研究（阪南高校田代貢教諭と共同）。

イヌビワコバチによるイヌビワの花粉媒介の機構を解明し（研究報告34号に発表），コバチ発生の消長と，イヌビワの花序形成，成熟の動態を解析した（研究報告第35号に発表）。

(3) 種子及び果実標本の収集と研究

昭和54年度特別展に展示され，その解説書「たねと実の世界」に発表。

布谷知夫（植物研究室）

(1) 林床植生の構造と動態についての研究

京大芦生演習林での調査と研究を行い，当館研究報告33号に発表した。

(2) ウバメガシ林の研究

大阪の森林研究グループの一員として大阪南部内陸部のウバメガシ林の調査を行った。

(3) ケヤキ林の研究

滋賀県下の川岸ケヤキ林の成立経過について研究を行い，当館研究報告35号に発表予定。

(4) 枝の伸長パターンについての研究

長居植物園内において約60種の樹木の枝の伸長パターンについて調査した。

(5) 大阪府羽曳野市の植生調査

羽曳野市市史編さん室の依頼により，同市の植生調査を行い，その結果を報告した。現在印刷中。

Ⅲ 研究業績の公表

■ 当館より発行された刊行物

大阪市立自然史博物館研究報告（Bulletin of the Osaka Museum of Natural History）

*は館外研究者。〔No.〕は当館業績番号。

第33号（昭和55年3月31日発行）119頁26図版

松本達郎*・両角芳郎：和泉山脈産の後期白亜紀アンモナイト（英文）。1—31, pls.1—16。〔No.233〕

山西良平：大阪湾の多毛類Ⅰ。1960年前後の種類相について。33—42。〔No.234〕

布谷知夫：林床植生の構造と動態（Ⅱ）落葉広葉樹林における林床と林縁植生。43—53。〔No.235〕

岡本素治：*Castanopsis fissa*（ホンコン産）の堅果および実生に関するノート（英文）。55-59, pl.17。〔No.236〕

宮武頼夫：日本産エノキカイガラキジラミ属について（半翅目：キジラミ科）（英文）。61—70, pl.18。〔No.237〕

日浦　勇：ウスバアゲハ亜科諸属の翅の紋様解析と系統論。71—95,〔No.238〕

樽野博幸：近畿地方産ナウマンゾウ化石について。97—106, pls.19—21。〔No.239〕

那須孝悌・瀬戸　剛：日本および周辺地域産イワヒバ属の胞子形態（予報）。107—119, pls.22—26。〔No.240〕第34号（昭和56年3月31日発行）86頁5図版

両角芳郎・桑野素弘*・谷　雅則*・宮本淳一*・田代正之*：和泉山脈から *Steinmanella*（*Yaharella*）*japonica obsoleta*（白亜紀三角貝）の産出とその層序学的意義。1—5, pls.1—2。〔No.242〕

岡本素治・田代貢*：イヌビワコバチがイヌビワの花粉を媒介する機構（英文）。7—16, pls.3—4。〔No.243〕

柴田保彦：鹿児島県甑列島の両生爬虫類。17—22。〔No.244〕

木元新作*：日本産ネクイハムシ類についての新知見（鞘翅目：ハムシ科）（英文）。23—26。〔No.245〕

野尻湖昆虫グループ(*)：日本産ネクイハムシ亜科に関する研究　1. 1979～1980年に得られた分布と生活上の知見。27—46。〔No.246〕

宮武頼夫：ネパールのキジラミ　Ⅰ　1979年にカトマンズ周辺で得られたキジラミについて　その1（半翅目：同翅亜目）（英文）。47—60, pls.5。〔No.247〕

日浦　勇：翅の紋様解析にもとずく真正アゲハ属の系統学的研究　1. キアゲハ型諸種群の色斑。61—78〔No.248〕

池辺展生*・千地万造・黄　敦友*：西太平洋地域新第三系の重要な生層序基準面（英文）。79—86。〔No.249〕

自然史研究（Occasional Papers from the Osaka Museum of Natural History）〔略称：研究短報〕

第1巻第14号（昭和55年6月15日発行）8頁

日浦　勇：イチモンジセセリの移動記録。141—148。〔No.241〕

＜昭和54年度には「自然史研究」は発行されなかった。＞

■ 研究室別報文一覧

昭和54・55年度において，当館発行の刊行物以外に印刷された報文を，研究室別に列挙した。便宜上，普及に関する著作物もここにくり入れてある。研究グループ連絡誌に類する刊行物に手書き簡易印刷されたも

のは，原則として収録していない。
複数の学芸員による共著は，筆頭著者の欄におさめた。「Nature Study」はnsと略記した。*は当館学芸員でない著者に付した。

〔地史研究室〕

千地万造（1979・5）創立50周年トピックス4　公立博物館の設置及び運営に関する基準の制定について，博物館研究，14(5)：18—21。

———・布谷知夫（1979・5）自然観察指導員検定制度に反対する。関西自然保護機構会報，(3)：27—30。

———（1979・6）〔分担執筆〕Ⅴ館種別博物館のありかた　3自然史系博物館。（新井重三編）博物館学講座1博物館学総論。雄山閣出版：163—172。

———（1979・6）100,000,000年前に地球を支配した動物　恐竜（きょうりゅう）（文研の図鑑ライブラリー④）。文研出版：64頁

———・両角芳郎（1979・6）大むかしの生物をさぐる。化石のふしぎ（文研の図鑑ライブラリー③）。文研出版：64頁。

———（1979・11・5）ナチュラル・ヒストリーと博物館。サンケイ新聞朝刊（文化欄）

———（1979・11）天見の鉱泉と鳥地ごく——南河内・泉北・泉南の鉱泉。ns.25(11)〔特集天見の自然〕：140—141。

———・紺田　功*（1979・12）富岡下部地域の *Sphaeroidinella subdehiscens* Base-datum について。新第三系の生層序・年代層序研究の最近の進歩，研究連絡紙No.1（IGCP—114国内ワーキング・グループ）

———（1980・1）新刊紹介。井尻正二編「大氷河時代」ns.26(11)：11

亀井節夫*・千地万造・石井久夫（1980・2）ウルム氷期後半の日本列島の海岸線。文部省科学研究費補助金総合研究(A)334049ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究（代表者　亀井節夫），昭和54年度報告書：3—21。

千地万造（1980・3）金剛・生駒山地および和泉山脈の地形と地質の概観。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）/1977・6/ 大阪府農林部自然保護課：3—8。

———（1980・6）〔分担執筆〕Ⅴ設置運営に関する基準。（下津谷達男編）博物館学講座9博物館の設置と運営。雄山閣出版：111—120。

池辺展正*・千地万造・黄　敦友*(1980・7）西太平洋地域新第三系の重要な生層序基準面〔講演要旨，英文：Important datum-planes of the western Pacific Neogene〕。26e Congrés Géologique International, Resumés, Vol.1 (Séction 1à5):241。

千地万造（1980・11）博物館における文字による展示解説。博物館研究，15(10)：11—12。

———（1981・3）ナチュラル・ヒストリーと動物園・水族館〔講演文，1980年11月26日，神戸市立須磨水族館にて，動物園・水族館部門　テーマ〔博物館の理論と実際，博物館としての動物園・水族館を考える〕。博物館指導者研究協議会報告書　昭和55年度〔日本博物館協会〕：88—101。

———（1981・3）国立ジョルジュ・ポンピドー芸術文化センターの概要。博物館研究，16(3)：25—32。

両角芳郎（1979・6）〔分担執筆〕自然史博物館。（市原実監修・地学団体研究会大阪支部編）大阪・神戸の自然を歩く——地学ガイド——。創元社：32—35。

———（1979・10）日本の白亜紀オウムガイ類化石。ns. 110—112。

———（1979・10）表紙写真〔紹介〕和泉山脈産イノセラムス，ns.25(10)：112。

両角芳郎・ほか8名*（1979・10）KT—79—6東大・海洋研・淡青丸航海　山陰・北陸の予察的記録。日本海域研究所報告〔金沢大学日本海域研究所〕，(11)：143—149

両角〔芳郎〕(1979・11）天見付近の地質概説。ns.25(11)〔特集天見の自然〕：137。

西本博行*・両角芳郎（1979・12）和泉山脈産の後期白亜紀板鰓類化石。瑞浪市化石博物館研究報告，(6)：133—139，pls.24—25。

両角〔芳郎〕コースに沿って。ns.25(11)〔特集天見の自然〕：138。

両角芳郎（1980・1）大阪自然ア・ラ・カルト第10回和泉山脈の化石。教育大阪，（340）〔1980年1月号〕：26—27。

———（1980・2）表紙写真〔説明〕恐竜の卵の化石。ns.26(2)：24。

———（1980・3）和泉山脈の地質と産出化石。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）：17—36。

———（1980・6）ノコギリザメの吻棘と化石。ns.(6)：62—64。

両角〔芳郎〕（1980・6）表紙写真の説明　カグラザ

メのなかまの歯の化石。ns.(6)：64。

両角〔芳郎〕新刊紹介　前田保夫著「縄文の海と森」ns.26(9)：102

石井久夫・ほか3名*（1979・6）〔分担共同執筆〕大阪周辺の地形と地質。大阪・神戸の自然を歩く――地学ガイド――：181―199。

――――（1979・8）表紙写真〔説明〕砂岩層の底面のもよう。ns.25(8)：95。

中村由克*・石井久夫（1980・1）泉福寺洞穴の地質と地理的環境。考古学ジャーナル，（172）〔1980年2月号〕：3―5。

石井久夫（1980・2）大阪自然ア・ラ・カルト第11回大阪平野の貝化石。教育大阪，（341）〔1980年2月号〕：26―27。

野尻湖地質グループ〔石井久夫・ほか8名*〕（1980・3）野尻湖発掘地とその周辺の地質（1976―1978）。地質学論集，(19)：1―31。

石井久夫（1980・3）金剛・生駒山地の地形と地質。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）：9―16。

――――（1981・1）岩を掘る二枚貝。ns.27(1)：8―11。

〔第四紀研究室〕

那須孝悌（1979・10）〔分担執筆〕第3章　森のうつりかわり。（井尻正二編）大氷河時代，東海大学出版会：111―148。

――――（1980・2）新刊紹介　湊正雄著「変動する海水面」，ns.27(2)：18

――――（1980・2）ウルム氷期最盛期の古植生について。

文部省科学研究費補助金総合研究(A)334049ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究（代表者　亀井節夫），昭和54年度報告書：55―66。

――――（1980・3）花粉分析からみた二次林の出現・関西自然保護機構会報，(4)：3―9。

野尻湖花粉グループ〔那須孝悌・ほか25名*〕（1980・3）野尻湖層の花粉化石と植物遺体。地質学論集，(19)：101―130。

那須孝悌・ほか7名*（1980・3）縄文後・晩期の低湿性遺跡と環境復元――福井市浜島遺跡，青森県亀ケ岡遺跡の調査例――。自然科学の手法による遺跡・古文化財等の研究――総括報告書――〔文部省科学研究費特定研究「古文化財」総括班〕：138―157。

――――・山内文*（1980・3）縄文後・晩期低湿性遺跡における古植生の復元。同上：158―171。

――――（1980・8）特別展「象狩りをした人たち――ぼくらの野尻湖発掘――」によせて。ns.26(8)：86―88。

――――・樽野博幸（1980・8）〔分担共同執筆〕Ⅸ森の宮遺跡の地層と古環境。森の宮遺跡第3・4次発掘調査報告書/1978・12〔難波宮址顕彰会〕：154―159。

――――・――――・ほか2名*（1980・11）〔分担共同執筆〕第3章調査の概要1）基本層序。鬼虎川遺跡調査概要Ⅰ〔東大阪市遺跡調査会〕：4―9。

――――（1980・11）〔分担執筆〕第3章調査の概要(5)自然遺物(3)植物遺体，(4)　花粉。同上：37―41，41。

――――（1980・11）植物相からみた日本の中期更新世。第四紀研究，19(3)：217―224。

樽野博幸（1979・5）大阪自然ア・ラ・カルト第2回古代人のゴミ捨場。教育大阪，（332）〔1979年5月号〕：32―33。

――――（1979・7）表紙写真〔説明〕ゴンフォテリウム―アネクテンスの頭骨（一部）と下顎骨。ns.25(7)：76。

――――（1979・7）日本の象化石。ns.25(7)：74―75。

――――・日浦　勇（1979・10）〔分担共同執筆〕第1章　陸生動物に何がおこったか。（井尻正二編）大氷河時代。東海大学出版会：1―42。

――――・河村善也*（1980・2）日本列島におけるウルム氷期後半以降の哺乳動物相。ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究，昭和54年度報告書：23―36。

野尻湖哺乳類グループ〔樽野博幸・ほか25名*〕（1980・3）野尻湖層産のナウマンゾウ化石。地質学論集，(19)：167―192，pls.1―10。

樽野博幸（1980・7）日本の象化石(2)。ns.26(7)：79―82。

――――・石井みき子*（1980・8）〔分担共同執筆〕Ⅹ森の宮遺跡出土の動物遺体（第3次調査）。森の宮遺跡第3・4次発掘調査報告書/1978・12：160―165。

才原金弘*・樽野博幸（1980・11）〔分担共同執筆〕第2章　位置と環境，鬼虎川遺跡調査概要Ⅰ：2―3。

樽野博幸（1980・11）〔分担執筆〕第3章　調査の概要5）自然遺物(1)動物遺体。同上：30―32，pl.23。

――――（1980・11）特別展「象狩りをした人たち――ぼくらの野尻湖発掘」について　大阪市立自然

史博物館。全科協ニュース〔全国科学博物館協議会〕，10(6)：2。

〔動物研究室〕

———柴田保彦（1979・6）大阪自然・ア・ラ・カルト第3回　おおさかのカエル。教育大阪，(334)〔1979年6月号〕：26—27

———（1979・7）シロアゴガエルが奄美大島に産するという記録について。両生爬虫類研究会誌，(14)：10。

———（1979・8）第2回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（両生・は虫類）大阪府　1978　環境庁：54頁。

———（1979・8）〔分担執筆〕カスミサンショウウオ（46—49p.），ヒダサンショウウオ（90—92p.），ハコネサンショウウオ（104—107p. この項は大野正男* と共同執筆），タワヤモリ（115—117.p）：第2回自然環境保全基礎調査　動物分布調査報告書（両生・は虫類）全国版　1978　環境庁。

———（1979・9）大阪自然ア・ラ・カルト第6回　ヤモリ。教育大阪，(336)〔1979年9月号〕：28—29。

———（1979・10）鉢伏高原（兵庫県）のシロマダラ。ns.25(10)：10。

———（1979・12）弥彦のヒバカリ。両生爬虫類研究会誌，(14)：26。

柴田〔保彦〕（1980・1）新刊紹介。千石正一編「原色　両生・爬虫類」。ns.26(1)：11。

柴田保彦（1980・2）大阪にもいるタワヤモリ。ns.26(2)：14—19。

———（1980・3）泉南郡岬町の海岸崖にみられるタワヤモリ。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）/1977・6/ 大阪府農林部自然保護課：315—321。

———（1980・3）金剛・生駒国定公園区域及びその隣接地域のカジカガエル。同上：245—248。

———（1981・1）大阪市立長居植物園（東住吉区）へコハクチョウが飛んできた。ns.27(1)：2。

山西良平（1979・4）みなとの付着動物1。ns.25(4)：43—45。

———（1979・5）表紙写真〔説明〕シワノカワ。ns.25(5)：50。

———（1979・5）みなとの付着動物2。ns.25(5)：52—54。

———（1975・5）かきまぜ法によるメイオベントス抽出の効率。ベントス研究会連絡誌，（17/18）：52—58。

———・ほか5名*（1979・5，12，1980・5，12）御坊市名田の海岸生物1，2，3，4，南紀生物，21(1)：10—17，21(2)：88—101，22(1)：36—45，22(2)：80—87。

———（1979・6）行事の記録　長崎海岸の海藻と動物。ns.25(6)：68—70。

———（1979・11）〔天見の〕陸貝。ns.(11)〔特集天見の自然〕：141。

———（1979・12）間隙生動物の採集と観察。ns.25(12)：153—156。

———（1979・12）表紙写真〔説明〕スナゴカイ。ns.25(12)：156。

山西〔良平〕（1980・3）大阪湾の海岸生物を調べよう——大阪湾海岸生物研究会の御案内——。ns.26(3)：31。

———（1980・3）表紙写真〔説明〕男里川河口（泉南郡）のハクセンシオマネキ。ns.26(3)：35。

———（1980・10）博物館行事の記録　ハクセンシオマネキの生態観察と数しらべ。ns.26(10)：118—120。

———（1980・11）大阪湾岩礁海岸動物相(13)——多毛類——。ns.26(11)：122—126。

———（1980・11）表紙写真〔説明〕ヒメイソギンチャク。ns.26(11)：132。

———（1980・11）日本産間隙生多毛類Ⅰ。西日本産イトクズサシバ属の1新種〔英文：Interstitial polychaetes of Japan Ⅰ。A new species of *Hesionura* from western Japan〕京都大学瀬戸臨海実験研究紀要，25（5/6）：343—348。

〔昆虫研究室〕

日浦　勇（1979・4）自然教室　雑木林の春　タラノキをめぐって。私たちの自然，（209）：10—14。〔次に再録；自然と親しむ野外観察　自然の教室（日本鳥類保護連盟編・出版科学総合研究所発行，1980・12）：13—17〕

———（1979・5）〔新刊紹介〕自然と人間——社会のなかの生態学　法律文化社　渋谷寿夫著。関西自然保護機構会報，(3)：32。

———（1979・6）モンシロチョウ属 *Pieris* の概観。蝶，(3)：1—19。

———・ほか8名*（1979・6）（談話会）*Pieris* の研究をめぐって。蝶，(3)：20—71。

———（1979・6）大阪市長原遺跡から見つかったゲンゴロウモドキ。ns.25(6)：62—65。

———・ほか3名* (1979・8) 河内長野市天見のアシナガバチの巣しらべ。ns.25(8):89−90。
——— (1979・8) アシナガバチの巣のみわけかた。ns.25(8):90—91。
——— (1979・8) ラミーカミキリ奈良へ侵入。ns.25(8):93。
———・宮武頼夫 (1979・10) 1979年同定会で見た昆虫。ns.25(10):118。
——— (1979・11) 宮武氏ら8人によって採集されたカトマンズ周辺の初夏の蝶。ちょうちょう, 2(11):58−66。
——— (1979・11) はじめに, はやしの歴史, アゼや石垣の植物, 天見の野鳥。ns.25(11)〔特集天見の自然〕:122, 125, 126, 135, 141。
日浦 〔勇〕・樽野〔博幸〕(1979・11) 棒谷の鳥地獄——巨大なトラップ(おとし穴)。ns.25(11):138—139。
加納康嗣*・河合正人*・日浦 勇 (1979・11) 天見の直翅類。ns.25(11):141—142。
尾花 茂*・日浦 勇 (1979・11) 天見のトンボ。ns.25(11):143。
日浦 勇 (1979・12) *Pieris ergane* の分類上の所属について。ちょうちょう, 2(12):49—51。
——— (1979・12) 都市化の中の子どもたち。岩波講座 子どもの発育と教育 月報, (7):1—3。
——— (1980・2) 地表性分化型生物の現在の地理的分布から推定したウルム氷期日本列島の環境区分。文部省科学研究費補助金総合研究(A)334049ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究(代表者 亀井節夫), 昭和54年度報告書:67—78。
冨永 修*・日浦 勇 (1980・2) 日本産オサムシの地理的分布と棲息環境。同上:79—86。
日浦 勇 (1980・3) 金剛・生駒山地・和泉山脈にみられる昆虫の生物地理的性格。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査(学術調査)/1977・6/ 大阪府農林部自然保護課:133—147。
———・ほか5名* (1980・3) 金剛・生駒山地・和泉山脈のオサムシ類——地表性昆虫相の調査より——。同上:197—232。
日浦 勇・冨永 修* (1980・3) 金剛・生駒山地・和泉山脈の渓流。同上:235—244。
———・桂孝次郎* (1980・3) 流水性トンボの種類組成からみた金剛・生駒山地・和泉山脈の渓流。同上:249—256。
———・ほか6名* (1980・3) 金剛・生駒山地・和泉山脈河川の底棲動物相。同上:257—312。
野尻湖昆虫グループ〔日浦 勇・宮武頼夫・ほか7名*〕(1980・3) 野尻湖層から発見された昆虫化石。地質学論集, (19):147—159。
日浦 〔勇〕(1980・3) ホソアシナガバチ *Parapolybia indica* の集団越冬。ns.26(3):32。
日浦 勇 (1980・5) 自然史ノート。博物館研究, 15(5):3—7。
——— (1980・6) オオツノカメムシの分布。ROSTRIA (32):331—333。
——— (1980・6) 蝶の自然史。やどりが, (101・102):40—46。
——— (1980・6) 良書紹介:高橋真弓著「チョウ——富士川から日本列島へ」。ns.26(6):66。
日浦 勇・宮武頼夫・冨永 修*・春沢圭太郎* (1980・8) 第2回自然環境保全基礎調査 動物分布調査報告書(昆虫類) 大阪府 1979 環境庁:102頁
——— (1980・8) 日本の高山生物相ノート。昆虫と自然, 15(9):2−11
———・ほか6名*〔座談, 司会・日浦 勇〕(1980・8) (座談会) 環境の人工化とアゲハチョウ科の棲息分布。ちょうちょう, 3(8):2—34。
——— (1980・9) 岩湧山麓の蝶3種。ns.26(9):102。
——— (1980・11) 〔分担執筆〕第3章調査の概要 5) 自然遺物(2)昆虫遺体。鬼虎川遺跡調査概要 I 〔東大阪市遺跡保護調査会〕:32—37。
——— (1980・12) マルモンツノカメムシとエサキモンキツノカメムシの分布。ROSTRIA, (33):354—358。
——— (1980・12) 東大阪市鬼虎川遺跡から見つかったオオオサムシ。ns.26(12):134—137。
——— (1980・12) 1980年の同定会で見た昆虫。ns.26(12):137。
——— (1980・12) ヒヨドリとモンシロチョウ。ns.26(12):137。
——— (1980・12) 表紙写真〔説明〕オオオサムシのオス。ns.26(12):144。
——— (1981・1) 日本生物相形成史の解明——その方法について。種生物学研究, 5:108—113。
日浦 勇・ほか3名* (1981・2) 博物館「川のトンボ幼虫をしらべる会」の報告。ns.27(2):22—23。
——— (1981・3) 新刊紹介 大阪昆虫同好会「北摂の昆虫(1)蝶類」。ns.27(3):35。
宮武頼夫・馬野正雄* (1979・4) 森林性昆虫の移動

・分散の観察例。ns.25(4)：46。

――――（1979・5）博物館へ寄贈されたハルゼミの化石。ns.25(5)：59。

――――（1979・7）大阪自然ア・ラ・カルト第4回おおさかのセミ。教育大阪，（334）〔1979年7月号〕：26―27。

――――（1979・7）水生昆虫の行動観察　飼育のポイント　タガメ。アニマ，7(8)〔1979年8月号〕：38。

――――（1979・8）カトマンズ周辺の初夏のセミ。ROSTRIA(31)：287―290。

――――・馬野正雄*（1979・10）アオバセセリが長居公園に飛来。ns.25(10)：118。

――――（1979・11）〔流谷八幡宮〕境内の虫。ns.25(11)〔特集天見の自然〕：128―129。

――――（1979・11）流谷八幡の蝶。同上：129。

宮武〔頼夫〕（1979・11）クヌギやナラのゴール。同上：130―131。

宮武〔頼夫〕・日浦〔勇〕（1979・11）天見駅前のサクラ並木の虫。同上：136。

宮武〔頼夫〕（1979・11）蛾（尾花コレクション）。同上：142。

宮武頼夫・ほか7名*（1979・11）カトマンズ周辺の初夏の昆虫をたずねて，ちょうちょう，2(11)：38―57。

――――（1979・12）新潟県のキジラミ。新潟県の昆虫（越佐昆虫同好会々報50号慶祝論文集）：211―230。

谷　幸三*・宮武頼夫（1979・12）ネパール・カトマンズ渓谷でヒマラヤムカシトンボを発見〔英文：The discovery of *Epiophlebia laidlawi* Tillyard, 1921 in the Kathmandu Valley, Nepal（Anisozygoptera: Epiophlebiidae）〕Odonatologica，8(4)：329―332。

宮武〔頼夫〕（1980・1）〔"松井静香：「セミの鳴き方のしくみ観察会に参加して――1979年8月18日開催――"への付記〕。ns.26(1)：6。

宮武頼夫（1980・3）金剛・生駒山地・和泉山脈のセミ類（森林性昆虫――Part 1）。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）：149―163。

――――（1980・3）金剛・生駒山地・和泉山脈の蛾類（森林性昆虫――Part 2）。同上：165―195。

――――（1980・3）近畿地方の同翅類(1)ツノゼミ類。ns.26(3)：26―30

――――（1980・3）チャオビフユエダシャクの新産地。ns.26(3)：30。

宮武〔頼夫〕（1980・3）〔行事の記録〕大阪の昆虫をしらべる会　第5回「クワガタムシ・カナブン・ハナムグリしらべ」ns.26(3)：32―33。

宮武頼夫（1980・3）特別陳列「宝塚昆虫館の標本・ヒマラヤのちょう・日本のヤドカリ」展――寄贈コレクションの紹介――。ns.26(3)：35。

――――（1980・4）ミドリヒョウモンの雌雄型。ちょうちょう。4(4)：23。

M〔宮武頼夫〕〔"宿坊秀樹：行事の感想「鳴く虫しらべ」に参加して"への付記〕。ns.26(4)：47。

宮武頼夫（1980・6）日本産コナジラミ類総目録。ROSTRIA，：(32)291―330。

宮武〔頼夫〕（1980・6）〔"土井恵子：博物館の行事の記録　大阪昆虫をしらべる会⑨ミノムシしらべ"への付記〕。ns.26(6)：70。

宮武頼夫（1980・7）自然の教室　おかしな葉を調べよう。私たちの自然，（224）：9―14。〔次に再録；自然と親しむ野外観察　自然の教室（日本鳥類保護連盟編・出版科学総合研究所発行，1980・12）：69―73。〕

――――（1980・10）近畿地方の同翅類(2)ハゴロモ科。ns.26(10)：110―112。

――――（1980・10）長居公園におけるイチモンジセセリの移動記録。ns.26(10)：112。

宮武〔頼夫〕（1980・10）表紙写真〔説明〕コバンムシとホザキノフサモ。ns.26(10)：120。

宮武頼夫（1980・11）九州・四国のコナジラミ相調査の結果。ROSTRIA，(33)：380―386。

――――（1980・12）クロコノマチョウが大阪市内で採集される。ns.26(12)：138。

――――（198　・3）トサヒラズゲンセイ和歌山市でみつかる。ns.27(3)：34。

〔植物研究室〕

瀬戸　剛（1979・4）〔"福井敏勝・牧嘉裕：大和葛城山でホソバシロスミレ発見"への付記〕。ns.25(4)：47。

――――（1979・5）日本のオオタニワタリとその類品。南紀生物，21(1)：6―9。

――――（1979・6）表紙写真の解説　シロバナハンショウヅル。ns.25(6)：71。

――――（1979・9）新刊紹介　長田武正著　野草の自然史。ns.25(9)：108。

――――（1980・1）リュウビンタイと浅間一男氏の

単葉の起源についての生長遅滞説について。 ns.26(1)：2—5。
———（1980・3）大阪自然ア・ラ・カルト第12回おおさかのヤナギ。教育大阪，（342）〔1980年3月号〕：26—27。
———（1980・3）金剛・生駒山地・和泉山脈の特色ある植物。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査/1977・6/ 大阪府農林部自然保護課：39—52。
———（1981・1）表紙写真〔解説〕リュウビンタイ。ns.26(1)：12。
———（1981・2）セイシェルのオオミヤシ。ns.27(2)：14—18。
———（1981・2）表紙写真の解説オオミズゴケの胞子のラ。ns.27(2)：23。
岡本素治（1979・4）スミレと蝶（素人の目で見たスミレ）。ns.25(4)：42。
———（1979・9）特別展紹介　ケケンポナシ。ns.25(9)：98—99。
———（1979・11）シラカシ。 ns.25(11)〔特集天見の自然〕：128。
———（1979・12）〔自然史研究会講演集録〕照葉樹林のブナ科植物，特にアカガシ亜属について。植物分類，地理，30（4—6）：195—198。
———（1979・12）大阪自然ア・ラ・カルト第9回ヒッツキムシ。教育大阪（339）〔1979年12月号〕：26—27。
———（1980・3）大阪府南部の照葉樹林について。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）：57—64。
———（1980・5）表紙の写真の解説　コウカンチョウに食べられたサクラ。ns.26(5)：54。
（1980・9）〔分担執筆〕Ⅳ植物とほかの生物　イヌビワ。（堀田満編）植物の生活誌。平凡社：160—165。
———〔訳〕（1981・3）アンドリュー J・ビーティー。スミレの生物学 Ⅰ スミレ属の花の進化（その1）・ns.27(3)：31—34。
布谷知夫（1979・3～11）Anima information　博物館／動物園・水族館だより，博物館〔連載〕博物館の入館料，野外観察会，博物館と市民の連帯，見学用のテキスト。博物館と自然保護，特別展，博物館の友の会，入館者との対話，学芸員。アニマ，7(4)〔No.73，1979年4月号〕～7(12)：99，99，95，95，95，99，95，95，95。
大阪の森林研究グループ〔布谷知夫・ほか9名*〕大阪府内陸部のウバメガシ林について。 ns.25(5)：55—58。
〔布谷知夫〕行事の記録　レンゲ畑。ns.25(6)：71。
布谷知夫（1979・9）博物館を良くするための800字提言。13。団体見学者用テキスト。博物館研究，14(9)：17。
———（1979・10）大阪自然ア・ラ・カルト第7回セイタカアワダチソウ。教育大阪，（337）〔1979年10月号〕：26—27。
———（1979・10）大阪市立自然史博物館友の会の考え方と活動。博物館研究，14(10)〔特集・日本の友の会活動〕：30—33。
布谷〔知夫〕（1997・11）植林について，流谷八幡の社叢，雑木林の利用，アカマツ林，スギ・ヒノキ林。ns.25(11)〔特集天見の自然〕：123—125，127，129—130，131，134。
布谷知夫・両角芳郎（1979・11）天見の立地。同上：122。
———（1979・11）自然史系学芸員から見た平塚市博物館。平塚市博物館年報，(3)：57—59。
———（1979・11）〔分担執筆〕Ⅴ館種別博物館の教育・普及活動と設備・施設　3自然史系博物館。（倉田公裕編）博物館学講座8博物館教育と普及。雄山閣出版：175—187。
———（1980・3）大阪府下で見られる林の特徴。金剛・生駒山地及和泉山脈の環境保全調査（学術調査）。53—56。
———（1980・3）金剛・生駒山地・和泉山脈の現存植生の現状と特徴。同上：65—79。
———（1980・3）芽生え。Box，(1)〔1980年4月号，ダイアモンド社〕：158—159。
———（1980・3）自然教育をすすめるために〔手がき〕。（昭和54年度自然教育セミナーでの記録。1979年5月，大阪府総合青少年野外活動センター）。第7回自然教育セミナー —— レポート ——（大阪青少年活動振興協会・関西テレビ青少年育成事業団編）：67—70。
———・栗林　実*（1980・3）箕面自然公園の教育的利用をすすめるために。箕面山猿調査報告書昭和54年度（箕面市教育委員会）：239—249。
———（1980・4）表紙写真〔説明〕羽曳野市前ノ山古墳（白鳥陵）の森林。ns.26(4)：42。
———（1980・4）木の年輪からわかること。 ns.26(4)：38—41。

――――（1980・7）葉のつきかたについて〔手がき〕。（昭和55年度自然教育セミナー記録。1980年5月，大阪府総合青少年野外活動センター）第8回自然教育セミナー――レポート――：27―30。

――――（1980・8）大阪市立自然史博物館と自然保護。自然環境を守る運動・学習と社会教育／第20回社会教育研究全国集会（資料集）（第20回社会教育研究全国集会京都実行委員会・社会教育推進全国協議会）：42―44。

――――・中村武男* 府立高津高校生物研究部（1980・11）和泉葛城山でのブナ林の現状(1980年）。ns. 26(11):127―130。

布谷〔知夫〕（1980・11）友の会夏の合宿（能勢）の記録。ns.26(11):130―131。

布谷知夫（1981・1）森林を材料とした観察と実習。大阪の自然と自然教育（科学教育研究協議会大阪支部・大阪理科サークル連絡協議会），1(2):1―7。

栗林　実*・永野正弘*・布谷知夫（1981・3）箕面自然公園の利用動態（予報）。箕面山猿調査報告書昭和55年度：207―221。

布谷知夫・栗林　実*（1981・3）サルの博物館の実現のために，同上：233―239。

布谷知夫（1981・3）将来計画の問題点と課題。同上：241―243。

Ⅳ　文部省科学研究費をうけて行った研究

1.　当館学芸員が研究代表者となったもの

昭和51年8月19日付で，当館は，文部大臣から「科学研究費補助金取扱規程第2条第4号に規定する研究機関」として指定された。

昭和54年度

■　奨励研究（A）

研　究　課　題	研究代表者	交付金額
和泉山脈における和泉層群の生層序，特にマストリヒシアンの有孔虫群集の研究（課題番号474373）	両角芳郎	千円 640

次のような調査研究を行った。

- 昭和54年10月3～9日，比較標本を得る目的で，ほぼ同時代と予想される根室層群の試料採集を行った。
- 昭和54年12月17―19日，九州大学にてアンモナイトほか大型化石による生層序とりまとめに関する研究打合せを行った。
- 昭和55年2月22―24日（粉河）ほか日帰りによる和泉層群の試料採集。これらの試料の処理により，大型化石を産する層準からは *Silicosigmoilina* 群集の有孔虫が検出されたが，それ以外の層準も含めて，微化石層序の手がかりとなる石灰質有孔虫は検出されなかった。

■　一般研究（D）

研　究　課　題	研究代表者	交付金額
Selaginella の分類に関する胞子形態学的研究（課題番号464230）	那須孝悌（研究分担者）瀬戸　剛	千円 470

研究内容：日本列島，南西諸島，台湾の各地で採集した標本およびアメリカ合衆国，マライ半島の標本にもとずいて，イワヒバ属4亜属21種の大胞子および小胞子の形態を比較検討した。

成果の公表：当館研究報告33号，pp.107～119，pls.22―26（1980年3月）「日本および周辺地域産イワヒバ属の胞子形態」

昭和55年度

■　奨励研究（A）

研　究　課　題	研究代表者	交付金額
日本列島におけるナウマンゾウの適応進化に関るる研究（課題番号574323）	樽野博幸	千円 790

調査：昭和55年11月5日～8日，昭和56年3月9日～12日の2回にわたり，岡山県倉敷市で標本の計測・観察・写真撮影を行った。現在報告をとりまとめ中である。

研　究　課　題	研究代表者	交付金額
ブナ科の花の花葉発生の比較形態学的研究（課題番号574283）	岡本素治	千円 800

ブナ目の系統発生を再検討するため，シイの花葉の発生を詳細に観察し，ブナ科の花が3数性であるか6数性であるかを確めた。結果は「植物分類地理」に投稿中である。

研　究　課　題	研究代表者	交付金額
日本産間隙生多毛類相の解明とそれらの地理的分布に関する研究（課題番号574309）	山西良平	千円 780

昭和55年6月28日～7月3日，北海道厚岸付近の海浜4個所において，また同年7月27日～7月31日，九州南

部の海浜6個所において，間隙生多毛類の試料を採取し，これらの地域において未記録の21種の棲息を確認した。

■ 特定研究（2）「古文化財」

研究課題	研究代表者	交付金額
昆虫遺体群集による遺跡環境の復元に関する基礎的研究（課題番号521804）	日浦　勇（研究分担者）宮武頼夫 那須孝悌	千円 2,300

第四紀研究室による大阪平野各地の遺跡の自然史的調査の結果，土層からかなり普遍的に昆虫遺体が発見されることが判明した。そこで，発掘土層から能率的に遺体を検出することから始まり，古環境の推定まで，昆虫遺体の研究法を確立することを目標にするものである。

新潟県西蒲原郡巻町大沢遺跡，千歳市美々遺跡，東大阪市水走より分析用土層を採取し，前・後者について分析を行った。これと平行して，北海道各地と鹿児島県薩摩半島等において湿地性昆虫の調査を行った。成果は昭和56年3月19・20日，国立教育会館で開かれた特定研究の研究会で講演した。

2. 当館学芸員が研究分担者として参加したもの。

昭和54年度

■ 総合研究（A）

研究課題	研究代表者	当館の研究分担者
ウルム氷期以降の生物地理に関する総合研究（課題番号334049）	亀井節夫（京都大学）	千地万造 日浦　勇 那須孝悌 樽野博幸 石井久夫

㊟この総研は昭和52年度から昭和54年度まで継続

千地万造　分担課題：ウルム氷期以降の有孔虫化石

●昭和55年2月11日，54年度シンポジウムにおいて，「ウルム氷期後半の日本列島の海岸線」を発表（亀井節夫・石井久夫と共同）

日浦　勇　分担課題：ウルム氷期の昆虫化石，ウルム氷期以降の昆虫相

●昭和55年2月11日，昭和54年度シンポジウムにおいて，「地表性分化型生物の現在の地理的分布から推定したウルム氷期日本列島の環境区分」を発表した。

那須孝悌　分担課題：ウルム氷期以降の花粉化石（近畿地方）

∘大阪平野および京都盆地の上部更新統・完新統の層序を検討し，花粉化石および植物遺に関する試資料を検討した。

∘昭和54年7月4日～7日に南関東地域の植物化石について現地調査をした。

∘昭和54年7月10日・11日に日本海で採取されたコアーサンプルの層序を検討

∘昭和54年11月25日～27日に総研事務局ワーキンググループとして全体の研究のとりまとめ。

∘ウルム氷期最盛期における日本列島全体の古植生図を作成

∘昭和55年2月10日・11日のシンポジウムに出席

成果の公表：「ウルム氷期最盛期の古植生について」文部省科研費総研（A）「ウルム氷期以降の生物地理」昭和54年度報告書，pp.55－66。（1980年2月）

樽野博幸　分担課題：ウルム氷期以降の哺乳動物化石

●昭和54年9月22日～24日：神奈川県において地質調査

●昭和55年2月11日：54年度シンポジウムにおいて，「日本列島におけるウルム氷期後半以降の哺乳動物」について話題提供（共同）

石井久夫　分担課題：ウルム氷期における日本列島の構造運動

∘54年度シンポジウルにおいて，「ウルム氷期後半の日本列島の海岸線」を発表（共同）。

昭和55年度

■ 総合研究（B）

研究課題	研究代表者	当館の研究分担者
日本の新第三系の生層序・年代層序の総括	土　隆一（静岡大学）	千地万造 両角芳郎

千地および両角は「浮遊性有孔虫による生層序」の分担課題でこの総研に参加した。昭和55年12月7～9日，検討会（於：熱海）が行われ，その結果は「日本の新第三系の生層序及び年代層序に関する基本資料（続編）」（土隆一編）として昭和56年3月末に出版された。千地はこの中で分担地域について執筆するとともに，編集委員としてその任にあたった。

また，日本の *Orbulina* datum に関連して，昭和56年3月9～12日熊野層群の微化石試料のサンプリングが行われ，千地・両角が参加した。

■ 特定研究（1）

研究課題	研究代表者	当館の研究分担者
縄文後・晩期の低湿性遺跡と環境復元	市原寿文（静岡大学）	那須孝悌

分担課題：花粉分析による植生復元の研究，全体の総

括

- 昭和55年8月25日～30日青森県亀ケ岡遺跡の発掘に参加
- 昭和55年9月6日～10日千歳市美々・美沢遺跡において分析用試料採取
- 昭和55年9月27日～10月7日新潟県巻町大沢遺跡の発掘に参加し，分析用試料を採取
- 昭和55年10月27日～28日静岡にて昭和55年度中間総括および昭和56年度の研究計画検討
- 昭和55年12月19日シンポジウム「C－14年代の信頼性」(於東京中野)に出席
- 昭和56年1月14日～15日研究成果討論会に出席
- 昭和56年1月20日シンポジウム「縄文農耕の実証性」(於東京中野）に出席
- 昭和56年2月27～3月1日大阪にて昭和55年度研究成果のまとめと原稿執筆
- 昭和56年3月19日～20日特定研「古文化財」シンポジウム（於東京虎の門）に出席

成果の公表：「縄文後・晩期における低湿遺跡の研究」特定研「古文化財に関する保存科学と人文・自然科学」昭和55年度年次報告書，pp.177～198。

Ⅴ　その他の調査

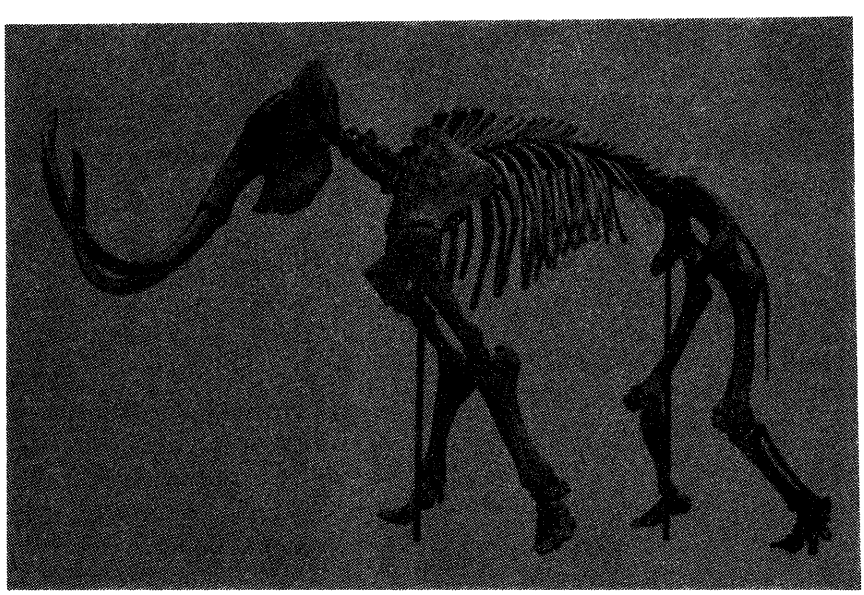
■　深泥池総合学術調査

京都市文化観光局文化財保護課では昭和52年度から同55年度まで，深泥池の総合的学術調査を京都市文化観光資源調査会記念物部会深泥池学術調査団（代表：北村四郎京都大学名誉教授）に委託した。当館からは那須孝悌（第四紀研究室）が，昭和53年度から地質班に参加し深泥池周辺の地質調査を行った。成果は「深泥池の地史」と題して「深泥池の自然と人――深泥池学術調査報告書」（京都市文化観光局昭和56年発行）に投稿した。

Ⅵ　研修生受入れ

● **植村純子**（豊能郡豊能町吉川863，中学教師）文部省科学研究費補助金による「大阪府北部能勢地域における第四紀堆積物の花粉分析」・第四紀研究室・那須学芸員指導。昭和55年7月1日～昭和56年3月31日。

●**河合正人**（あやめ池自然博物館学芸員）「自然史系博物館における学芸事務全般の技術習得。」日浦学芸課長指導。昭和55年4月1日～3月31日，毎週1回。



昭和54年度購入　マンモスゾウ全身骨格模型

資料収集保管事業

新館の建設以来，施設の充実と職員への信頼感がおそらく原因となって，各方面からの寄贈が急増した。また各学芸活動の結果，飛躍的に資料が集り，プレパレーションが追いつかない現状である。昭和55年度には第4収蔵庫の開設が実現したこと（建設工事のみ，収納戸棚類は懸案となって残った），および交換文献処理にアルバイト採用ができたこと，の2点で前進があった。

Ⅰ　主な購入標本（購入単位は千円）

■　地史研究室

＜昭和54年度＞

岐阜県赤坂産ヨコヤマオキナエビス	1点	100
恐竜ヒプセロサウルスの卵	2点	600

■　第四紀研究室

＜昭和54年度＞

◦マンモス全身骨格（レプリカ）	1点
◦イノストランケビア頭骨（レプリカ）	1点
◦中村純氏収集現生花粉プレパラート	1,144点

＜昭和55年度＞

◦野尻湖産哺乳類化石（レプリカ）	10点
◦野尻湖および周辺出土の旧石器（レプリカ）	12点

■　動物研究室

＜昭和54年度＞

カエルのレプリカ（委託加工）	6種7個体	771点

■　昆虫研究室

＜昭和54年度＞

セラム島産パンドラムラサキ	4点	10
カナダ産蝶	65点	90
セミ化石	1点	10
アンボン・フィリピン産蝶	23点	100
東南アジア産セミ各種ほか	123点	50

＜昭和55年度＞

東南アジア産蝶	61点	130
インドネシア産蝶	12点	30
北米産甲虫化石	5点	17

■　植物研究室

＜昭和54年度＞

栃木県産フクベ，ヒョウタン　果実および加工品	計　6点	15.6
ブシュカン果実		50
モモの花と果実模型	各1点	95

Ⅱ　寄贈標本および収集標本

■　地史研究室

（1）　寄贈標本

＜昭和54年度＞

和泉山脈産ウニ化石	1点	梅田　藤一氏
和泉山脈産腕足類化石	1点	宗徳　吉昭氏
和泉山脈産ブリューログラマトドン	1点	宮本　淳一氏
鳥屋城産アンモナイト	1点	宮本　淳一氏
宝塚昆虫館旧蔵岩石・鉱物・化石標本	60点	阪急電鉄
岐阜県赤坂産ヨコヤマオキナエビス	1点	辻　和夫氏
和泉山脈産カニ化石	1点	岡崎　美彦氏
和泉山脈産カニ化石	1点	山本　勝吉氏
インドネシア産カヘイセキほか	100点	松岡　数充氏
富岡層群および西八代層群・静川層群の浮遊性有孔虫	2,901点	紺田　功　氏

＜昭和55年度＞

和泉山脈産ウニ化石	3点	中沢　均　氏
和泉山脈産ホタテガイ化石	2点	浜田　実　氏
アメリカ産岩塩結晶	1点	原田　憲一氏
広島市沖積層貝化石	5点	今村　外治氏

（2）　館員による主な採集

担当学芸員が行なった採集は次のとおり（C：千地，M：両角，I：石井）

＜昭和54年度＞

5月20～28日　北陸・山陰沖日本海　底質の表層および柱状試料（M）
6月7～16日　山陰沖日本海　底質の表層および柱状試料（C，I）
7月16～19日　長野県阿南町貝化石（I）
8月27日　泉佐野市新池　和泉層群化石（M）
8月27～30日　千葉県成田市　貝化石（I）
8月28～31日　淡路島　和泉層群化石（M）
10月3～9日　北海道　根室層群微化石試料（M）

＜昭和55年度＞

4月21日　神奈川県二宮町貝化石（I）
5月3日　和歌山市戒崎　イノセラムス化石（I）
6月30日　高知県佐川町　鳥ノ巣層群ウニ化石（M）
7月25日　三重県久居市　貝化石（I）
8月8日　長野県信濃町　岩石（I）
9月22日　石川県珠州市　平床層貝化石（I・館員）
9月24・25日　淡路島　プラビトセラス（M）
10月9日　兵庫県豊岡市　貝化石（I）
10月10日　京都府久美浜町　鉱物（I）
12月15～19日　淡路島および鳴門市　アンモナイト化石ほか（M）
3月8～12日　和歌山県東牟婁郡微化石試料（C，M）
3月18～21日　愛知県赤羽根町貝化石（I）

■ 第四紀研究室

（1） 寄贈標本

＜昭和54年度＞

シベリア産毛サイ頭骨　1点　ソ連邦科学アカデミー
和歌山県産イノシシ頭骨　1点　広畑　正勝氏
奈良県産イタチ　1点　瀬戸　淳氏
ナウマンゾウ臼歯　1点　竹中　春夫氏

＜昭和55年度＞

高槻市鵜殿産コサギ　1点　田口　圭介氏
十勝産エゾシカ骨（1部）1点　土井仲治郎・道盛正樹氏
北海道産食虫類　16点　春沢圭太郎氏
奈良県産ヒミズ　2点　冨永　修氏
熊本県産ネズミ　1点　冨永　修氏
高槻市産パン　1点　田口　圭介氏
大阪市南区産クジラ化石　3点　竹中工務店殿
奄美大島産哺乳類　3点　土井仲治郎氏

（2） 館員による主な採集

担当者名はN：那須孝悌，T：樽野博幸

＜昭和54年度＞

昭和54年8月11～13日　長野県野尻湖およびその周辺地域の水生植物の花粉（N）
8月31日：刈谷市牛池の水生植物の花粉（N）
9月22日～24日：関東地方において火山灰資料採集（N・T）
12月9日：泉南市滝ノ池の化石採集（T）
2月14日～28日：東大阪市中野においてボーリングによる地質資料採集（N・T）
3月16日：神戸市奥畑の化石採集（T）

＜昭和55年度＞

昭和55年6月16日：高槻市番田の沖積層および天満層の微化石分析用試料（N，T）
8月25日～30日：青森県亀ケ岡周辺の植物（N）
9月6日～10日：千歳市南方およびウトナイ湖の植物および花粉（N）
10月8日～15日：東大阪市西石切町において，ボーリングによる地質資料採集。

■ 動物研究室

（1） 寄贈標本

＜昭和54年度＞

宮古島産サキシマトカゲ，久米島産ニホンカジカガエル　各1点　湊　宏氏
泉大津産カサネカンザシゴカイ　1点　布施慎一郎氏
奈良市産マシジミ　5点　瀬戸　淳氏
和歌山県産海産動物　11点　山本　虎夫氏
ネパール産両生爬虫類　18点　冨永　修氏他
ネパール産両生爬虫類及びコウモリ　16点　谷幸三氏他
各地産両生爬虫類　8点　西川　喜朗氏
石垣島産ホオグロヤモリ　9点　高須賀信悟氏
九州産カエル　4点　春沢圭太郎氏
ノコギリエイの吻　1点　小畠　遵禄氏
各地産多毛類等　140点　西川　輝昭氏
和歌山県産タカチホヘビ　1点　湊　宏氏
北陸地方産海産動物　246点　今岡　亨氏
神戸市産海岸動物　13点　布施慎一郎氏
大阪港産イボニシ　6点　酒井　保次氏
和歌山県産カイエビ類　1点　山西　順子氏
和歌山県産ソバガラガニ他　2点　真鍋　彊
和歌山市産タコ　1点　田代　貢氏
泉南郡岬町産海岸動物　7点　田代　貢氏
鹿児島湾産二枚貝　3点　田代　貢氏
等脚類副模式標本　3点　布村　昇氏
バイカル湖産端脚類・魚類　6点　福渡　七郎氏
佐渡産両生爬虫類　11点　冨永　修氏他
山形・福島県産両生類　11点　冨永　修氏
和歌山県産有尾両生類　3点　湊　宏氏
兵庫県産ヘビ，奈良県産カエル　4点　冨永　修氏
鳥取県産スナホリガニ　3点　永野　正弘氏
沖縄県産ヤモリ3種　5点　当山　昌直氏
富山県産両生爬虫類　14点　冨永　修氏
吹田市産シマヘビ　1点　山中　雅也氏
モクズガニ・シナモクズガニ　4点　長谷川正美氏
岡山県産ヒダサンショウウオ　1点　平野　義幸氏
沖縄本島産キノボリトカゲ　1点　土井仲次郎氏
滋賀県産イモリ　8点　長谷川正美氏
九州・韓国産カエル　50点　長谷川正美氏
日本各地産ヤドカリ類　374点　今福　道夫氏
神戸市産異尾類　1点　柴田　留奈氏
泉南産フトヘナタリ　2点　鍋島　靖信氏
徳之島産バーバートカゲ　1点　湊　宏氏
奈良市産ヤマカガシ　1点　瀬戸　淳氏
兵庫県産シュレーゲルアオガエル　1点　冨永　修氏
山形・岐阜県産カエル　2点　冨永　修氏
小笠原産マイマイ類　2点　冨永　修氏
富山産海産ヒル　2点　布村　昇氏
宝塚昆虫館旧蔵鳥類標本　1,783点　阪急電鉄ＫＫ
同　貝類標本　1,255点　同

＜昭和55年度＞

奈良県産両生類　4点　冨永　修氏
和歌山県産ヤツワクガビル　1点　西川　喜朗氏

滋賀県産タンカイザリガニ	6点	長谷川正美氏
北米産カブトガニ	1点	井上　貞信氏
泉南産マイマイ類	10点	山本　雅雄氏
室蘭産ノミハマグリ	1点	山本　虎夫氏
熊本県産ダルマゴカイ	2点	吉田　　司氏
静岡県産ヘビ・カエル	2点	春沢圭太郎氏
大阪湾産海岸動物	950点	大阪湾海岸生物研究会
対馬産イソゴカイ	17点	長谷川正美氏
富山産ホタルイカ・シラエビ	4点	富山市科学文化センター
紀ノ川産貝類	3点	船本　浩二氏
若狭湾産底生動物	37点	今岡　　亨氏
オーストラリア産ウニ	3点	今岡　　亨氏
泉南産アナジャコ他	2点	鍋島　靖信氏
厚岸産オオバンヒザラガイ	2点	厚岸臨海実験所
広島県産サンショウウオ類	11点	宇都宮妙子氏
芦屋市産イモリ・カエル・ドジョウ	4点	春沢圭太郎氏
大阪市内産ヤモリ	1点	桂　孝次郎氏
茨木市ツチガエル	2点	春沢圭太郎氏
各地産両生爬虫類	7点	春沢圭太郎氏
各地産十脚甲殻類	4点	鍋島　靖信氏
能勢町産マメシジミ	1点	桂　孝次郎氏
和歌山県産シロマダラ	1点	湊　　宏氏
大阪湾産トウゴロウイワシ	1点	柴田　　始氏
大阪湾産魚15種	33点	柴田　始氏他
大分・沖縄県産両生爬虫類	47点	長谷川正美氏
神戸市産トゲツノヤドカリ	1点	柴田　英司氏
泉南産ケヤリムシ他	2点	鍋島　靖信氏
和歌山市産ゴイシガニ	1点	村井　貴史氏
和歌山県産ゴカイ	1点	長谷川正美氏
福井県産チドリマスオガイ	1点	福岡　　修氏
岡山県産ヒダサンショウウオ	1点	西川　喜朗氏
宝塚市・天理市産カエル	2点	西川　喜朗氏
タカチホヘビ・シロマダラ	2点	西川　喜朗氏
京都府・福井県産タゴガエル	4点	西川　喜朗氏
千葉県産カエル	6点	冨永　　修氏
奈良県産シュレーゲルアオガエル	1点	冨永　　修氏
大阪市内産ヤモリ	1点	熊内　雅人氏
石垣島産ヤエヤマアオガエル	1点	長谷川正美氏
和歌山県産イモリ	18点	長谷川正美氏
壱岐・対馬産カエル	67点	長谷川正美氏
和歌山県産タカチホヘビ	1点	藤本　艶彦氏
各地産両生爬虫類	22点	冨永　修氏他
奈良県産ナガレヒキガエル	1点	春沢圭太郎氏
等脚類副模式標本	4点	布村　　昇氏
各地産両生類	5点	冨永　　修氏
広島・島根県産両生爬虫類	13点	冨永　　修氏
各地産両生爬虫類	23点	土井仲次郎氏
各地産カエル	6点	冨永　　修氏
西表島産ホオグロヤモリ	1点	長谷川正美氏

（2） 館員による主な収集標本

＜昭和54年度＞

大阪湾各地の海岸へ13回出かけ，潮間帯生物540点を採集。

和歌山県白浜町の海岸で無脊椎動物541点を採集。

＜昭和55年度＞

山口県秋穂海岸で無脊椎動物64点を採集。

高知県各地の海岸で無脊椎動物830点を採集。

北海道厚岸の海岸で無脊椎動物75点を採集。

平戸諸島で両生類195点採集。

■ 昆虫研究室

（1） 寄贈標本

＜昭和54年度＞

ニューギニア産甲虫・日本産オサムシ	45点	仲田元亮氏
ハネナシコオロギ	1点	池崎　善博氏
滋賀県産昆虫	86点	西川　喜朗氏
西表島の昆虫	72点	橋田　俊彦氏
琉球・近畿産トンボ	30点	森田　佳明氏
マレーシア産甲虫	337点	中山　當己氏
キイロスズメバチの巣	1点	尾曽　重芳氏
キイロスズメバチの巣	1点	三木　茂久氏
マレー産蝶	9点	吉年　祐一氏
ベニシジミ族のパラタイプ	2点	大英博物館
マレー産セミ	23点	越智　輝雄氏
ミドリヒョウモン雌雄型	1点	松野　千里氏
ナイジェリアのトンボ	18点	緒方　政次氏
日本産 *Lasius* 属の羽アリ	214点	田中　将宏氏
島根県ギフチョウほか	31点	山野　忠清氏
韓国産オサムシ	20点	若林　守男氏
柏原市産ヘイケボタル	22点	馬野　正雄氏
山形・秋田県産ネクイハムシ・キジラミ	19点	白畑孝太郎氏
オオツノカメムシ	1点	大串　悦子氏
ラダック産蝶	800点	寺村　重一氏
福井県産カワラバッタ	2点	永瀬　幸一氏
近畿各地産昆虫	40点	西川　喜朗氏
福井県池，河内産蛾	184点	桂・春沢・冨永・馬野氏
北陸・東北地方の昆虫	42点	冨永　　修氏
大津市の昆虫	41点	春沢圭太郎氏

茨木市の昆虫　70点　桂　孝次郎氏
舞鶴市の昆虫　30点　冨永　修氏
長野県産直翅類　8点　小林　正明氏
兵庫県猪名川町のトンボ　7点　桂　孝次郎氏
長野・群馬県産の昆虫　83点　春沢圭太郎氏
金剛山・六甲山の昆虫　93点　春沢圭太郎氏
近畿各地産昆虫　93点　粉川　昭平氏
広島・三重県産昆虫　30点　桂　孝次郎氏
近畿各地産昆虫　122点　冨永　修氏
高槻市産オサムシ　2点　冨士原芳久氏
千葉県産カワトンボ　5点　乾風　登氏
富山・岐阜・新潟・奈良産昆虫　288点
春沢圭太郎・桂孝次郎・土井仲治郎氏
山形県月山産昆虫　10点　衣笠　弘直氏
大分県産スズメバチ　7点　春沢圭太郎氏
南米のバッタ・サソリモドキ　5点　伊賀　正汎氏
東南アジアのナナフシ・サソリ　3点　伊賀　正汎氏
石鎚山のフキバッタ　1点　藤井俊夫・藤井伸二氏
三島郡島本町の昆虫　22点　上田　俊穂氏
香港産セミ　7点　Dr. D.S. Hill 氏
能勢産ハッチョウトンボ　2点　仲田　元亮氏
シンガポール産昆虫　5点　仲田　元亮氏
マレー産甲虫　99点　中山　當己氏
能勢産小甲虫　3点　仲田　元亮氏
アボタイマイ　3点　中西明徳・矢田脩氏
旧宝塚昆虫館所蔵昆虫標本　18,873点　阪急電鉄KK
マレー半島産タイワンモンキアゲハ　2点　石井　実氏
日本産ハチ　1,618点　佐藤　納氏
ブラジル産蝶・蛾　14点　渡辺　芳男氏
ヒメヒカゲ・キマダラルリツバメの各亜種のタイプ標本
4点　岡田　慶夫氏
平塚市産直翅類標本　32点　浜口　哲一氏
堺市産直翅類　165点　春沢圭太郎氏
沖縄産直翅類　96点　小浜　継雄氏
近畿産昆虫　28点　河合　正人氏
近畿産昆虫　43点　西川　喜朗氏

＜昭和55年度＞

能勢産昆虫　698点　仲田　元亮氏
タイ産シボリアゲハ　1点　牛島弘一郎氏
佐賀県産蛾　35点　後藤　光男氏
日本産昆虫各種　315点　小島　圭三氏
タイ産昆虫　17点　津田　滋氏
豊中市の昆虫　102点　柴田　始氏
朝鮮半島のトンボ　44点　若林　守男氏
近畿の直翅類　2点　河合　正人氏
ツバキシギゾウムシ　4点　仲田　元亮氏
松江市産オサムシ　54点　山野　忠清氏
奄美大島及び各地産昆虫　92点　春沢圭太郎氏
アルファク島デリアス・ジャワ産蝶　88点　中山　當己氏
ヒゲブトキジラミ　13点　田中　章氏
ナイジェリア産甲虫標本　112点　薮野友三郎氏
ニトベツノゼミ　1点　中川　俊夫氏
マレー産トンボ・蝶　24点　吉年　祐一氏
トゲナナフシモドキ　4点　小林　俊樹氏
日本各地産ベニヒカゲ　410点　多田　豊氏
虫入りバルト琥珀　3点　株式会社ベオルナ大阪支社
タイ北部の昆虫　158点　津田　滋氏
栃木産オサムシ　116点　吉村　俊彦氏
岡山県産昆虫　22点　菊池　勝氏
鳥取県産蝶　5点　西村　元氏
和歌山県産タイワントビナナフシ　1点　乾風　登氏
徳島市産ウミコオロギ・タイワンエンマコオロギ　多数
谷川　武義氏
奈良市産バッタ　3点　河合　正人氏
ヒメセマルガムシ　5点　佐藤　正孝氏
能勢産昆虫　202点　仲田　元亮氏
日本産甲虫　144点　仲田　元亮氏
堺市百舌西之町産蛾　1,887点　後藤　光男氏
アフガニスタン産昆虫　374点　有田　豊氏
台湾及び八重山産昆虫　138点　有田　豊氏
マレーシア産半翅類　67点　有田　豊氏
韓国産半翅類　448点　有田　豊氏
日本産半翅類　256点　有田　豊氏
東南アジア甲虫同定標本　1,632点　中條　道夫氏
各地産セミ　296点　中條　道夫氏
ネパール産トンボ・セミ　17点　野村　哲郎氏
イギリス産アブラムシのパラタイプ　2点　大英博物館
西表島産トビイロゲンゴロウ　1点　瀬能　宏氏

（2） 館員による採集と主な収集標本

日本産昆虫の平均的収集，大阪産昆虫の完全な収集等の目的で，担当学芸員（日浦・宮武）が行なった出張は次の通りである。便宜上，調査研究のための出張および普及行事やその予備調査の際の出張も含めて記述する。

（担当者名は，H：日浦，M：宮武と略記する。）

＜昭和54年度＞

4月8日　奈良公園　糞虫など（H・M）
4月10日・22日　高槻市成合　蝶類分布調査（H・M）
4月18日　二上山　一般昆虫（H）
4月20日・5月6日　河内長野市天見　一般昆虫（H）

4月27日～5月6日ネパール（カトマンズ・プルチョキ山・ゴカルナ・カカニ・シバプリ山・ゴダバリ）（M・加納・馬野）
4月29日　豊能町天台山　一般昆虫（H）
5月5日　高槻市神峯山寺～萩谷　一般昆虫（H）
5月10～11日　香港（タイポカウ）一般昆虫（M・馬野）
5月16日・6月10日　高槻市出灰　一般昆虫（M）
5月27日　河内長野市天見　ハチ・ハチの巣（H・M）
6月8・24日　高槻市萩谷 エノキの昆虫ほか（H・M）
6月29日～7月1日　山形県月山　湿原昆虫（H）
7月15日　泉南郡岬町孝子～和歌山市平井　セミほか一般昆虫（H・M）
7月26日・8月19日　豊能町吉川　一般昆虫（H・M）
7月31日～8月2日　隠岐島　蝶ほか一般昆虫（M）
7月31日～8月6日　長野県野尻湖　昆虫化石（H）
8月5日～9日　長野県野尻湖　昆虫化石（M）
8月18日　羽曳野市古市石川　直翅類（H）
8月28日　河内葛城山　蝶ほか一般昆虫（H）
9月8日　富田林市滝谷不動～汐の宮 直翅類（H・M）
9月15日　奈良県高市郡高取山　一般昆虫（M）
9月17日　能勢妙見山　キジラミ・一般昆虫（M）
9月22～24日　神奈川県足柄上郡中井町 昆虫化石（H）
10月5・14日　富田林市滝谷不動～河内長野市寺ケ池　トンボほか（H・M）
10月23～26日　新潟県三国峠・弥彦山　キジラミほか一般昆虫（M・馬野）
11月11日　泉南市岡町　カマキリほか直翅類（H・M）
12月11・23日　大東市野崎　ミノムシなど（H・M）
3月3日　奈良県吉野郡大淀町薬水　昆虫調査（H）
3月15日　橿原市・御所市・千早赤阪村　イチモンジセセリ越冬調査（H）
3月23日　河内長野市天見川　水生昆虫（H）

＜昭和55年度＞

4月12・20日　豊能町青貝山　一般昆虫（H）
4月17日　奈良県吉野郡下市町　昆虫調査（H）
4月27日　奈良市富雄～交野市　訪花昆虫（H・M）
5月11日　高槻市水無瀬　一般昆虫（M）
6月1日　河内長野市岩瀬　ハチほか（H）
6月22日　三重県桑名市・員弁郡藤原町　キジラミほか（M）
6月28～29日　長野県野尻湖周辺　湿原昆虫（H・M）
7月2日・9月17日　京都市深泥池・滋賀県八日市市　キジラミ・ネクイハムシほか（M）
7月6日　神戸市道場　一般昆虫（H）
7月7～9日　盛岡市・八幡平・早池峯山　湿原昆虫ほか一般昆虫（M・馬野）
7月12～13日　泉南郡峯町谷川　一般昆虫（H・M）
7月18～24日　北海道天人峡・層雲峡・足寄・阿寒・釧路　湿原昆虫（H・M）
7月31日～8月1日　松本市・島々谷　一般昆虫（M）
9月6～10日　北海道千歳市　昆虫遺体および湿原昆虫（H・M）
9月28日　羽曳野市古市石川　直翅類（H・M）
10月5～8日　新潟県西蒲原郡巻町大沢遺跡　昆虫遺体及び湿原昆虫（H・M）
11月6日　京都府大山崎町天王山　クモ・昆虫等（H）
11月9日　泉佐野市長滝　昆虫調査（H・M）
11月16日　高槻市原　一般昆虫（H）
12月7日　東大阪市額田～生駒山　越冬昆虫（H）
1月26日　東大阪市石切　越冬昆虫（H）
3月9～14日　鹿児島県串木野市　水田昆虫調査（H）
3月25～29日　長野県野尻湖　昆虫化石（H）
3月28日～4月1日　長野県野尻湖　昆虫化石（M）

■ 植物研究室

（1） 寄贈および交換（＊）標本（おもなもののみ）

＜昭和54年度＞

日本産シダ植物標本	32点	光田　重幸氏
*日本産植物標本	174点	県立山口博物館
熊野地方産植物標本	76点	大洞　浩一氏
台湾産シダ植物標本	59点	樋口　雄一氏
タイ国産果実標本	11点	Thawatchai Santisk
タイ国産果実模型	6点	Thawatchai Santisk
日本産海藻標本	50点	山本　虎夫氏
*ハワイおよび日本産植物標本	195点	花明山植物園
マレー半島産シダ植物標本	28点	吉年　祐一氏
奈良県産シダ植物標本	19点	辻本　善次氏
関東地方産シダ植物標本	82点	生田　耕蔵氏
近畿地方産植物標本	63点	桑島　正二氏
熊野地方産植物標本	35点	大洞　浩一氏
日本産植物標本	100点	金沢大学植物学教室
日本産苔類標本	71点	松本　邦夫氏
大阪府箕面産カギカズラ標本	2点	村田　賢三氏
大阪府箕面附近産植物標本（樋口美智子氏遺品）	約 300点	藤田　利之氏
日本産蘚類標本	100点	中島徳一郎氏
奈良県産シダ植物標本	66点	辻本　善次氏
静岡県産植物標本	24点	生田　耕蔵氏
日本産植物標本		松本　邦夫氏
中国地方産シダ植物	29点	生田　耕蔵氏

山和正氏・足立義弘氏・梅原徹氏・山下善平氏・沢井氏・池崎善博氏・中島徳一郎氏・佐藤正孝氏・村瀬忠義氏・中西正氏・清水千尋氏・里中長治氏・近田文弘氏・梶山彦太郎氏から寄贈をうけた。

●機関・団体

小学館・保育社・長崎鼈甲商工協同組合・生物学御研究所・西宮自然保護協会・下北半島ニホンカモシカ調査会・関西文献センター振興会・大阪公共図書館協会・大阪自然環境保全協会 ・ 立教大学生物物理学研究室。特定研「古文化財」総括班。

●政府機関

近畿地方建設局淀川工事事務所・同淀川ダム総合管理事務所・環境庁自然保護局企画調整課。近畿農政局大阪統計情報事務所・水産庁漁場保全課・同瀬戸内漁業調整事務所。

●自治体

<北海道>自然保護課。<秋田県>自然保護課。<山形県>自然保護課。<福島県>自然保護課<茨城県>環境管理課。<栃木県>環境観光課。<群馬県>自然保護対策室。<埼玉県>自然保護課。<千葉県>自然保護課。<東京都>自然環境保護部。<富山県>自然保護課。<石川県>自然保護課。<福井県>自然保護課。<山梨県>環境公害課。<長野県>自然保護課。<岐阜県>環境保全課。<静岡県>自然保護課。<愛知県>自然保護課。<三重県>観光公園課。<滋賀県>自然保護課。<京都府>府公害対策室，府立総合資料館，府立図書館， 京都市公害対策室， 市山林耕地課。<大阪府>自然保護課，農政課水産室，統計課，総合計画課，土地政策課，河川課，都市河川課，公園課，西大阪治水事務所神崎川出張所，北部ダム建設事務所，府立中之島図書館，府立夕陽丘図書館，大阪市公園局庶務課，市教委文化振興課。<兵庫県>環境管理課。 <奈良県>観光課。 <和歌山県>自然保護課<鳥取県>自然保護課。<島根県>環境保全課。<広島県>自然保護課，広島市広島城管理事務所。<山口県>自然保護課。<徳島県>環境課。<香川県>自然保護課。<愛媛県>環境整備課。<高知県>自然保護課。<福岡県>環境保全課。<佐賀県>公害対策課。<長崎県>自然保護課。<熊本県>自然保護課。<大分県>環境管理課。<宮崎県>環境保全課。<鹿児島県>環境保全課。<沖縄県>教育庁文化課

2. 購入等によるもの

■ 図書購入費による購入

年　度	冊　数
54	392
55	266

■ 消耗品費による購入

54・55年度

国内：自然，科学朝日，科学と実験，遺伝，科学，アニマ，海洋と生物，学術月報

国外：Copeia, Curator, Evolution, Journal of Paleontology, Pacific Science, Systematic Zoology, Geological Magazine, Taxon.

■ 学会への加入による収集

16学会へ団体会員として入会し，会誌を収集した。学会名は館報９号（23頁）にあるものと同じである。

3. 文献交換状況

■ 交換・寄贈による刊行物の受け入れ

当館発行の研究報告・自然史研究・収蔵資料目録・館報・展示解説・Nature Study （当館編集・博物館友の会発行）と交換に，国内国外の研究・教育機関と文献交換を行った。また各自治体・団体・個人から調査報告書等の寄贈をうけた。交換及び寄贈により入手の逐次刊行物・調査報告書のうち，

昭和54年度受入れ冊数は，3,946冊，累計 48,655冊。

昭和55年度受入れ冊数は，5,274冊，除籍冊数260冊さしひき5,014冊の増加，累計 53,669冊であった。

■ 研究報告（Bulletin）第32号・33号，及び自然史研究（Occasional Papers）1巻13号・同14号の配布。

研究報告	国　内		国　外	
32号	273ヵ所	279冊	483ヵ所	486冊
33号	259ヵ所	265冊	483ヵ所	486冊

自然史研究	国　内		国　外	
1巻13号	157ヵ所	163冊	190ヵ所	192冊
1巻14号	156ヵ所	161冊	196ヵ所	196冊

*いずれも第１回配布分のみ。

Ⅴ その他出版物の配布状況

(1) 収蔵資料目録

	国　内		国　外	
第11	90ヵ所	96冊	各23ヵ所	24冊
第12・13号	各97ヵ所	102冊	23ヵ所	24冊

(2) 展示解説（特別展解説を含む）

昭和54年度	国内90ヵ所	109冊あて2回
昭和55年度	国内95ヵ所	116冊あて2回

(3) Nature Study

昭和54年度	国内100ヵ所	国外14ヵ所
昭和55年度	国内 81ヵ所	国外14ヵ所

4. 国際標準逐次刊行物番号（ISSN : International Standard Serial Number）**と当館刊行物**

国立国会図書館逐次刊行物部国内逐次刊行物課の指示により，次の当館刊行物に ISSN が割り当てられた。

刊行物名	国際標準逐次刊行物番号	キー・タイトル（登録書名）
大阪市立自然史博物館館報	ISSN 0389—8105	Osaka Shiritsu Shizenshi Hakubutsukan kanpō
大阪市立自然史博物館研究報告	ISSN 0078—6675	Bulletin of the Osaka Museum of Natural History
自然史研究	ISSN 0078—6683	Shizensi kenkyū
大阪市立自然史博物館収蔵資料目録	ISSN 0389－9047	Osaka Shiritsu Shizenshi Hakubutsukan shuzō shiryō mokuroku
当館友の会刊行物については次の通りである。		
Nature Study	ISSN 0466—6089	Nature study (Osaka, 1955)

Ⅵ 収蔵資料目録

■ **大阪市立自然史博物館収蔵資料目録** 第12集および第13集：高知大学名誉教授中村純著「日本産花粉の標徴 Ⅰ（第13集，91頁；昭和55年発行），Ⅱ（第12集，157図版；昭和55年発行）」

昭和54年度購入　恐竜の卵の化石　フランス南部の白亜紀後期の地層から発見されたヒプセロサウルスの卵の化石

普及教育事業

普及する者と普及される者，教える人と教えられる人，情報の送り手と受け手，世話する人とされる人――普及活動はとくに意識してとりくまぬかぎり，このような乖離を産み出す。自然史の分野で「自立した」人がうまれるのを期待するかぎり，館の普及活動はこのような乖離から脱皮しなければならない。

共に学び，互にに計画・協力しながら，学芸員と参加市民・児童がいっしょに成長してゆく，という普及活動のスタイルを確立しよう，と努力が試みられた。一朝一夕に確立できるものではないが，昭和54・55年度を通じて若干の進歩がみられた。

Ⅰ　各種普及活動

■　やさしい自然観察会

1.　昭和54年度

4月15日	海べの生物	216名
5月6日	レンゲ畑	93名
10月21日	ドングリと落葉	79名

ハガキあずかり　157組

	「あずかり」による申込	その他の申込
海べ	64	42
レンゲ	49	18
ドングリ	17	19

2.　昭和55年度

5月25日	川原の石	13名
9月28日	バッタのオリンピック	
11月2日	木の実と落葉	35名

■　テーマ別　野外観察会

1.　昭和54年度

5月13日	干潟のカニとその巣穴	19名
6月9日	カエルの声をきく会	21名
7月29日	木の枝の観察会	28名
9月9日	地層の観察会（室内）	28名
9月16日	〃　（野外）	28名
11月4日	二上山の地質見学	21名
12月2日	光明池周辺の地層見学	30名
3月23日	川のトンボの幼虫を調べる会	78名

2.　昭和55年度

4月27日	みのおの自然（春のニホンザル）	17名
6月15日	ハクセンシオマネキ	23名
6月21日	カエルの声をきく会	35名
6月22日	多田銀山の地質見学	41名
7月27日	夏のニホンザルの観察会	31名
11月6日	秋のニホンザルの観察会	4名
11月16日	二上山北西麓の地質見学	名
11月23日	秋の海岸生物観察会	25名
12月14日	地質の観察会	25名
3月8日	冬のニホンザルの観察会	49名

■　地域自然史シリーズ

1.　昭和54年度

4月29日	天台山	29名
6月10日	出灰	30名

2.　昭和55年度

4月20日	青貝山	59名
7月6日	道場	32名

■　室内実習

1.　昭和54年度

5月13日	春のイネ科植物	54名
8月18日	セミの鳴き方のしくみ	16名
10月14日	秋のイネ科植物	27名
10月7日	イソガニ（海の生物）	14名
11月4日	ムラサキウニ（〃）	8名
12月2日	シロボヤ（〃）	6名
12月16日	小さな化石　けいそう	20名
1月13日	クロフジツボ（海の生物）	9名
2月10日	ヨメガカサ（〃）	10名
2月17日	小さな化石　ボウスイチュウ	21名

2.　昭和55年度

4月27日	ケンビ鏡で花粉を見よう	3名
10月12日	イトマキヒトデ（海の生物）	15名
12月13日	マガキ（海の生物）	12名
1月31日	カンザシゴカイ（海の生物）	14名
3月8日	小さな化石	19名

■　サマースクール（天王寺動物園と共催）

1.　昭和54年度

1回目	7月22日～24日	
2回目	7月26日～28日	
3回目	7月30日～8月1日	合計　177名

2.　昭和55年度

1回目	7月22日～24日	
2回目	7月25日～27日	
3回目	7月29日～31日	計　207名

■　標本同定会

1.　昭和54年度

日　時	参加者数*	同定件数*	部門別件数**	
8月26日(日)			植物	159件
10時～12時			昆虫	31

13時～16時	476名	282件	鉱物岩石	20
			化石	18
			貝	23
			その他動物	8

参加者地域区分

大阪市内	176件（東住吉区71など25区）
大阪府下	63件（堺市16など20市）
他府県	16件（兵庫県7など5府県）

2. 昭和55年度

日　時	参加者数*	同定件数*	部門別件数**	
8月30日(土)			植物	168件
10時～12時			昆虫	40
13時～16時	491名	304件	鉱物岩石	23
			化石	27
			貝	24
			その他動物	3

参加者地域区分

大阪市内	168件（東住吉区67など26区）
大阪府下	85件（堺市19など24市）
他府県	27件（兵庫県15など5府県）

*受付の記録による

**同定依頼申込票の集計による。申込票は完全には回収されなかったので，受付の記録による総件数と合致していない。

■ 科学映画会

1. 昭和54年度

4月15日　北極の大自然
5月20日　空気呼吸と水呼吸
6月17日　赤潮
7月15日　森のおいたち
8月19日　自然対人間
9月16日　緑の都市計画
10月21日　野尻湖の発掘
11月18日　自然
12月16日　ゆれ動く大地
1月20日　雷鳥の世界
2月17日　日本のクジラ
3月16日　日本人はどこからきたか。

2. 昭和55年度

毎月第3日曜日

4月20日
5月18日　アジア・オセアニアの動物たち
6月15日　南北アメリカの動物たち
7月20日
8月17日　秋吉台の生物
9月21日　ニホンザル
10月19日　自然の中の化学
11月16日　パンの世界
12月21日　カルスの世界
1月18日　冬の上高地
2月15日　池・小さな生物の世界
3月15日　たたかう魚たちの世界

■ 大阪の虫を調べる会

1. 昭和54年度

4月22日	モンシロチョウの仲間	53名
5月27日	ハチの生活	38名
6月24日	エノキの昆虫	38名
7月15日	ヒメハルゼミをさがす	46名
8月19日	クワガタムシ・カナブン・ハナムグリしらべ	35名
9月8日	鳴く虫	48名
10月14日	アカトンボしらべ	23名
11月11日	カマキリとその卵	29名
12月23日	ミノムシしらべ	19名
2月23日	まとめの会	27名

なお，このシリーズは好評であったので昭和55年度は前年度参加者中から世話役有志をつのり，自主運営にきりかえ，昆虫研究室の学芸員が内容の指導を行い，10回開催した。

■ 講演会

2. 昭和55年度

8月24日　酒井潤一氏（信州大学理学部）
「野尻湖の発掘」
10月12日　麻生優氏（国学院大学）
「日本の石器時代」

■ 学芸員講演会

1. 昭和54年度

4月7日　宮武頼夫　なぜ大阪にも珍しい昆虫が残っているか
5月12日　岡本素治　イチジクの仲間と，そのコバチの話
6月2日　両角芳郎　和泉山脈から産出するアンモナイト類化石
7月7日　樽野博幸　日本のゾウ化石

8月4日	瀬戸　剛	アカウキクサについて
9月1日	柴田保彦	カエルと鳴き声
10月6日	山西良平	大阪湾の海岸生物
11月10日	日浦　勇	海をわたる蝶
12月1日	那須孝悌	花粉と胞子の化石
1月12日	布谷知夫	植物社会の遷移
2月2日	千地万造	日本の新第三紀の生層序・年代層序研究の最近の進歩
3月1日	石井久夫	10万年前の貝化石

2.　昭和55年度

4月5日	宮武頼夫	セミとキジラミのちがい
5月10日	日浦　勇	アゲハチョウの斑紋の進化
6月7日	岡本素治	植物の花粉媒介に関するいろいろな話題
7月5日	両角芳郎	第四紀の日本海における浮遊性有孔虫の変遷
8月2日	瀬戸　剛	アクアリウムのシダ
9月6日	柴田保彦	大阪の爬虫類
10月4日	山西良平	ゴカイの仲間とその系統
11月1日	樽野博幸	大阪の縄文・弥生人が食べた動物
12月6日	那須孝悌	先史時代における人と自然
1月10日	布谷知夫	木の枝の伸び方について
2月7日	千地万造	日本の新第三系の微化石層序区分と放射年代
3月7日	石井久夫	大阪地下の貝化石

■　植物園案内

毎月毎3土曜日午後2時―4時に当館学芸員が市民と共に長居植物園内をまわってその季節の植物の説明を行った。年間12回，延参加者数54年度290名，55年度334名。（参加者数は参加者の自由な記名によっているので，実際の参加者は各400名程度である。）

■　植物スケッチクラブ

1.　昭和54年度

4月22日	10月28日
5月20日	11月18日
6月17日	1月20日
7月22日	2月17日
9月23日	3月16日

Ⅱ　大阪市立自然史博物館友の会

自然史博物館友の会は，博物館をうまく利用して，これから勉強をすすめてゆこうとする人達の会であるが，本会の場合は，同時に，専門研究者から一般市民，小中学生までの巾広い会員層を持ち，さまざまな形態の利用がされている。昭和54年，55年は会員数も増加し，活発な活動が行われた。なお，友の会の会計年度は1月1日から12月31日までである。

■　会　員

54年12月31日	1,133名
55年12月31日	1,245名

■　評議員会

会　長　粉川　昭平（市立大学理学部）
副会長　　2名
評議員　　12名

■　事務職員

54年1月1日～55年9月30日　藤田安見・安井朗子
55年10月1日～55年12月31日　中西貴子

■　友の会行事

1.　昭和54年度

5月19日	タンポポ	37名
6月23日	カブトエビ	26名
7月26日	磯の生物	18名
8月3日～5日	夏の合宿（氷ノ山）	58名
10月27日	特別展案内	14名
10月28日	谷川の生物	15名
11月17日	大阪駅見学	9名
2月3日	冬鳥の観察会	29名

2.　昭和55年度

5月18日	磯の生物	18名
5月24日	中之島の自然観察	14名
8月22日～24日	夏の合宿（能勢）	51名
9月7日	シギ・チドリ観察会	21名
10月5日	谷川の生物観察会	20名
11月16日	クモの観察会	20名

■　Nature Study（友の会発行の月刊普及誌）

毎号12頁のものを当館が編集している。友の会会員に発送されるほか，当館普及センターで友の会が販売している。

■　友の会の日

館内で普及行事の行われる日を友の会の日とし，会員は会員証を提示して職員通用門から入館できる。

庶　　務

Ⅰ 沿　革

昭和24年11月8日—自然科学博物館開設準備委員会設置
昭和25年4月1日—自然科学博物館費予算に計上
昭和25年11月10日—市立美術館2階廊下において展示開設
昭和27年4月17日—博物館相当施設に指定
昭和27年6月2日—大阪市立自然科学博物館条例および規則制定
昭和27年7月10日—博物館法第10条により登録（第2号）
昭和27年10月1日—筒井嘉隆，館長に就任（39.7.4退任）
昭和32年6月7日—市立美術館より西区靱2丁目（戦災元靱小学校校舎改造）に移転
昭和33年1月13日—開館
昭和34年　—新館建設について本市社会教育審議会の意見具申（教育委員および市長へ）
昭和39年3月31日—市条例および規則改正
昭和39年7月4日—千地万造　館長に就任（現在に至る）
昭和39年　—「日本育英会貸与金の返還を免除する職をおく研究所」に指定される。
昭和42年　—大阪市総合計画局"30年後の大阪の将来計画"により長居公園内に新館敷地確定
昭和44年8月　—新館建設のための基本構想審議委員会組織
昭和45年4月　—自然史博物館建設委員会組織
昭和47年1月21日—自然史博物館建設工事着工
昭和48年3月31日—自然史博物館建設工事竣工
昭和48年4月1日—旧館閉館
昭和48年7月　—新館へ移転開始並びにディスプレイ契約締結（竣工49年3月）
昭和49年4月1日—大阪市立自然史博物館条例公布（施行49.4.2）
昭和49年4月26日—自然史博物館開館式挙行
昭和49年4月27日—開館
昭和51年8月19日—文部省科学研究費補助金取扱規定第2条第4号に規定する学術研究機関として指定される。

Ⅰ 組　織

■ **職員数**（昭和56年3月31日現在）計29名

館長(1)-副館長(1)-（庶務課長兼）
- 庶務課長(1)-主査(1)
  - 事務職員(4)
  - 技術職員(1)
  - 守衛(1)
  - 汽かん員(1)
  - 電気作業員(1)
  - 業務員(7)
- 学芸課長(1)
  - 主任学芸員(3)
  - 学芸員(7)

■ **職員名簿**

職　名	氏　名	職　名	氏　名
館　長	千地　万造	学芸課長	日浦　勇
副館長兼庶務課長	坂間　忠雄	主任学芸員	柴田　保彦
庶務課主査	出水　又義	主任学芸員	瀬戸　剛
事務職員	丸山　嘉幸	主任学芸員	宮武　頼夫
〃　〃	中馱　一男	学芸員（地史）	両角　芳郎
〃　〃	鈴木三千代	〃（第四紀）	那須　孝悌
〃　〃	町田　嘉宏	〃（植物）	岡本　素治
技術職員	西村　元	〃（第四紀）	樽野　博幸
守　衛	菊池　勝	〃（地史）	石井　久夫
業務員	内本　光次	〃（植物）	布谷　知夫
〃	大谷　春雄	〃（動物）	山西　良平
〃	高橋　明子		
汽かん員	加藤　正次		
電気作業員	平岡徳治郎		
業務員	池田　昭利		
〃	馬野　正雄		
〃	吉田　茂		
〃	下原千鶴子		

■ **人事異動**

- 昭和54年7月3日　熊本喜成　中央図書館へ転出，丸山喜幸　阿倍野青年センターより当館庶務課へ
- 昭和55年5月8日　加納康嗣　教務部給与課へ転出，町田嘉宏　西成地区青少年会館より当館庶務課へ
- 昭和56年1月1日　小川泰利　美術館庶務課へ転出
- 昭和56年2月1日　高橋明子　消防局港消防署より当館庶務課へ

■ **海外出張**

- 昭和55年7月5日～同7月19日　千地館長第26回国際地質会議出席のため，フランス国パリー市に出張
- 昭和55年10月2日～11月29日　瀬戸主任学芸員 *Hibiscus* 属植物の系統分類およびアジア区系植物分

西布南限地誌の調査並びに関連資料収集のため，インド諸島（マダガスカルを含む）並びにアフリカ東岸へ出張

・昭和55年10月23日～11月7日　出水主査　日本博物館協会主催の海外博物館事情視察のため米国・カナダへ出張

Ⅱ　庶務日誌（抄）

■ 54年度

4・6　新採用者研修（大卒）　70名
4・13　新採用者研修（高卒）　100名
5・10　特別陳列「熊野地方の植物展」開催（6月22日まで）
5・19　長沢京都市青少年科学センター次長来館
5・22　富山市科学文化センター本多主幹来館
6・9　奈良大学文学部学生（60名）博物館実習のため来館
6・13　運輸省港湾局計画課小坂補佐官見学のため来館
6・17　関西大学文学部学生（29名）博物館実習
6・20　福井県文化課長補佐ら県立博物館設置につき来館
6・29　岩手県小野田学芸員ら県立博物館設置につき来館
7・1　KONC（関西自然保護機構）シンポジウム「環境保全と2次林」開催
7・17　竜谷大学文学部博物館実習につき来館
7・25　鹿児島県山下文化課長，県立博物館建設につき来館
8・17　ソ連科学アカデミー古生物研究所蔵マンモス全身骨格（レプリカ）公開
8・26　標本同定会実施
9・6　北九州市自然史博物館準備室小石川主幹来館
9・16　第6回特別展「たねと実の世界」開催（10月31日まで）
9・21　埼玉県杉山文化財保護課長一行来館
10・4　群馬県土屋管財課長ら県立博物館建設につき来館
10・7　KONCシンポジウム「環境指標生物」開催
11・13　郵政省資金運用課大竹事務官来館
11・28　隣接都市協議会主管者会議一行来館
55・1・5　草食恐竜ヒプセロサウルス（Hipselosaurus）の卵公開
2・6　栃木県博物館建設準備班一行来館
2・19　多摩市山下社会教育課長郷土資料館建設につき意見聴取
2・24　中国科学院古脊椎動物，古人類研究所長兼北京自然博物館長周明鎮博士・同副所長呉汝康教授来館（翌25日大島大阪市長を表敬訪問，市長より中国恐龍展の本市開催を要請）
2・27　和歌山県科学博物館展示委員一行及び三重県博物館協会一行
3・22　特別陳列「宝塚昆虫館の標本・ヒマラヤのちょう・日本のヤドカリ」展（4月27日まで）
3・25　富山県皆川知事室長来館

■ 55年度

4・4　新採用者研修（大卒）　100名
4・11　新採用者研修（高卒）　100名
5・2　入館 100万人目（有料）に記念品と図書贈呈
5・1　北九州市教育長来館
5・16　11大都市児童福祉主管者会議一行来館
5・31　クエート共和国文部省博物館局長兼国立科学自然史博物館長アルアティーキ（Hamad Mr. Al・Ateegi）来館
6・5　常陸宮殿下御夫妻ご来館
6.11～6.15　橘女子大学博物館実習のため来館
6・14　竜谷大学文学部博物館実習
6・21　鹿児島県立博物館長来館
7・15　栃木県専門委員・事務局職員ら県立博物館建設につき来館
7・18　大阪大学文学部博物館学実習のため来館
8・7　中国科学院古脊椎動物研究所沈文龍ほか来館
8・24　特別展「象狩りをした人たち」開催（10月26日まで）
8・25　伊藤北方文化博物館長来館
8・26　仏教大学通信教育部博物館実習
8・30　標本同定会実施
10・17　群馬県立歴史博物館田中主事一行来館
12・10　中国青少年活動視察団一行7名（団長王寿仁），本市の青少年教育事情視察のため来館
56・1・11　和歌山県立自然科学博物館建設につき，乾風建設協議会委員一行来館
〃1・17　広島市社会教育委員一行，博物館建設につき視察
〃2・6　北九州市山根総務部長来館
〃2・7　国立科学博物館椎名普及課長来館
2・10　富山市会議員佐藤英逸氏来館
2・27　労働省香坂安全技術課長来館

Ⅲ　予算・決算

■　昭和53年～55年度（人件費をのぞく）

（単位　千円）

歳入歳出区分	部区分	事項	53年度 当初予算	53年度 決算	54年度 当初予算	54年度 決算	55年度 当初予算	55年度 決算
歳入		入館料ほか	12,389	13,388	13,442	13,519	14,922	14,769
		雑収(パンフレット等の売上)	3,619	1,359	3,257	1,774	3,262	2,333
		国庫補助金	900	1,270	1,250	1,100	1,450	1,400
		合計	16,908	16,017	17,949	16,393	19,634	18,502
歳出	第1部	常設展覧事業	2,896	2,659	2,957	2,913	2,877	2,549
		特別展覧事業	1,877	2,360	2,324	1,868	3,339	2,554
		調査研究事業	2,384	2,410	2,592	2,626	2,306	2,200
		資料収集保管事業	2,414	2,496	2,334	2,839	2,426	3,441
		普及教育事業	1,072	880	1,068	1,131	1,270	1,542
		一般維持管理費	43,975	44,113	44,308	44,206	44,585	55,843
		合計	54,618	54,918	55,583	55,583	56,803	68,129
	第2部	館蔵品整理事業	5,200	5,200	5,200	5,200	5,200	4,800
		自然教室事業	800	800	800	800	1,200	1,200
		第4収蔵庫整備事業	0	0	0	0	6,390	6,706
		その他経費	0	0	0	0	0	1,690
		合計	6,000	6,000	6,000	6,000	12,790	14,396
	第1部・第2部合計		60,618	60,918	61,583	61,583	69,593	82,525

■当初予算年度別推移

（歳　入）

（単位　千円）

区分＼年度	51	52	53	54	55
入館料ほか	23,106	12,008	12,389	13,442	14,922
雑収	3,672	3,551	3,619	3,257	3,262
合計	26,778	15,559	16,008	16,699	18,184

（歳　出）

（単位　千円）

部区分＼年度	51	52	53	54	55
第1部	49,255	52,802	54,618	55,583	56,803
第2部	8,400	9,500	6,000	6,000	12,790
合計	57,655	62,302	60,618	61,583	69,593

■ **月別歳入内訳**（昭和53年度～55年度）

（単位　円）

年度 / 月別	53年度 入館料等	53年度 雑収	53年度 計	54年度 入館料等	54年度 雑収	54年度 計	55年度 入館料等	55年度 雑収	55年度 計
4 月	1,570,710	302,919	1,873,629	1,940,355	187,606	2,127,961	1,482,465	150,400	1,632,865
5 月	2,158,580	108,450	2,267,030	2,504,945	227,150	2,732,095	3,112,380	247,422	3,359,802
6 月	526,820	79,050	605,870	714,540	67,300	781,840	738,770	77,050	815,820
7 月	593,515	32,700	626,215	593,255	90,900	684,155	627,715	106,050	733,765
8 月	1,050,065	94,473	1,144,538	1,181,480	154,600	1,336,080	2,258,005	430,650	2,688,655
9 月	2,062,210	245,450	2,307,660	1,325,505	195,650	1,521,155	1,778,380	284,550	2,062,930
10 月	1,968,380	143,250	2,111,630	2,132,060	240,700	2,372,760	1,981,235	228,960	2,210,195
11 月	1,136,195	80,100	1,216,295	632,645	111,900	744,545	820,200	94,900	915,100
12 月	338,545	41,000	379,545	347,430	53,250	400,680	189,380	230,900	420,280
1 月	296,610	67,550	364,160	379,530	122,250	501,780	333,965	124,450	458,415
2 月	633,260	58,950	692,210	566,400	146,750	713,150	462,845	192,800	655,645
3 月	1,053,095	104,800	1,157,895	1,200,490	176,050	1,376,540	983,660	164,800	1,148,460
計	13,387,985	1,358,692	14,746,677	13,518,635	1,774,106	15,292,741	14,769,000	2,332,932	17,101,932

■ **国庫補助金・科学研究費**

昭和54年6月―社会教育施設活動促進費（国庫補助）の交付内示（補助額1,110千円）

昭和54年9月―科学研究費補助金（一般研究D）の交付決定（那須孝悌，「Selaginella の分類に関する胞子形態学的研究」補助額470千円）

昭和54年10月―科学研究費補助金（奨励研究A）の交付決定（両角芳郎，「和泉山脈における和泉層群の生層序，特にマストリヒシアンの有孔虫群集の研究」補助額640千円）

昭和55年7月―社会教育施設活動促進費（国庫補助）の交付内示（補助額1,400千円）

昭和55年8月―科学研究費補助金（特定研究2）の交付決定（日浦勇，「昆虫遺体群集による遺跡環境の復元に関する基礎研究」補助額2,300千円）

昭和55年10月―科学研究費補助金（奨励研究A）の交付決定（樽野博幸，「日本列島におけるナウマンゾウの適応進化に関する研究」補助額790千円。岡本素治，「ブナ科の花の花葉発生の比較形態学的研究」補助額800千円。山西良平，「日本産間隙生多毛類相の解明とそれらの地理的分布に関する研究」補助額780千円）

昭和55年5月2日　入場者百万人突破

Ⅳ　入館者数（昭和54年度～55年度）

年度	54年度					55年度				
	有料		無料	計	開館日数	有料		無料	計	開館日数
月	大人	小人	幼・小・中学生・老人		(日曜日数)	大人	小人	幼・小・中学生・老人		(日曜日数)
4	13,943	11,078	2,071	27,092	25（5）	9,348	12,643	1,588	23,579	25（4）
5	18,098	19,334	12,172	49,604	25（4）	20,359	27,947	14,027	62,333	27（5）
6	5,139	4,765	4,347	14,251	26（4）	5,271	5,380	7,040	17,691	25（5）
7	3,815	4,177	289	8,281	26（5）	3,778	4,892	266	8,936	27（4）
8	7,937	8,231	19	16,187	27（4）	10,726	12,326	194	23,246	26（5）
9	5,719	5,464	2,915	14,098	25（5）	5,516	7,342	1,614	14,472	24（4）
10	4,978	15,193	9,429	29,600	25（4）	4,460	17,330	10,124	31,914	26（4）
11	3,723	7,096	6,436	17,255	24（4）	4,814	8,459	5,575	18,848	26（5）
12	2,313	2,326	1,142	5,781	22（4）	1,225	1,649	2,161	5,035	22（3）
1	2,740	2,468	1,177	6,385	23（4）	2,041	3,148	1,160	6,349	22（3）
2	3,190	5,746	3,072	12,008	25（4）	3,221	3,199	3,176	9,596	23（4）
3	7,416	10,094	3,626	21,136	25（5）	5,990	8,729	3,797	18,516	25（5）
計	79,011	95,972	46,695	221,678	298（52）	76,749	113,044	50,722	240,515	298（51）

■　特別展入館者数（昭和51年度～55年度）

種別／年度	個人		団体		無料	合計	開催期間	実開催日数	タイトル
	大人	小人	大人	小人	幼・小・中学校				
51	7,591	8,401	506	752	171	17,421	8・1～8・31	26	大阪湾の海岸生物
52	7,684	6,280	2,074	16,974	9,997	43,009	10・1～11・30	50	和泉山脈の自然
53	10,992	9,701	2,032	15,436	17,697	55,858	9・9～11・12	52	鳴く虫
54	6,863	6,037	1,388	12,821	11,339	38,448	9・16～10・31	38	たねと実の世界
55	11,796	11,765	1,322	14,345	9,358	48,586	8・24～10・26	53	象狩りをした人たち

■ 団体入館者の内訳（昭和54年度）

● 有料団体

区分 / 月別	大人を主とした団体				小人を主とした団体							合計	
	団体数			人数	団体数						人数	団体数	人数
	社会教育諸団体	高校大学ほか	計		青少年団体	小学校	中学校	高校学校	養護教育諸学校	計			
4					16	12	2			30	2,552	30	2,552
5		14	14	1,041	24	52	11	3		90	15,577	104	16,618
6		3	3	547	11	6		1		18	1,502	21	2,049
7	2	3	5	246	7	7	1			15	811	20	1,057
8		3	3	549	4	1	2	2		9	535	12	1,084
9		2	2	236	8	5	2	1	1	17	1,359	19	1,595
10	1	9	10	452	21	64	3			88	12,603	98	13,055
11		8	8	590	11	27	6			44	5,450	52	6,040
12					2	2	1			5	477	5	477
1						1		2		3	746	3	746
2	1		1	34	1	19				20	2,970	21	3,004
3	1	3	4	319	21	20	3	1		45	3,099	49	3,418
計	5	45	50	4,014	126	216	31	10	1	384	47,681	434	51,695

● 無料団体

区分 / 月別	保育所		幼稚園		小学校		中学校		養護教育諸学校		その他（老人クラブほか）		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4			2	225	2	280						1,566	4	2,071
5	17	874	20	2,240	39	6,301	7	1,186	1	8		1,563	84	12,172
6	8	737	13	1,969	7	820	2	644	5	177			**35**	**4,347**
7	2	144	1	90					1	55			4	289
8	1	19											1	19
9	10	825	8	1,094	5	903	1	28	1	65			25	2,915
10	17	1,454	6	677	36	6,324	5	909	1	20	1	45	66	9,429
11	6	493	9	1,267	14	4,364	2	233	2	79			33	6,436
12	1	83	1	285	4	688					1	86	7	1,142
1	2	122	1	107	2	666			2	282			7	1,177
2	5	300	4	422	12	1,733	2	467	2	150			25	3,072
3	25	1,124	8	1,372	6	1,047	1	11	3	72			43	3,626
計	94	6,175	73	9,748	127	23,126	20	3,478	18	908	2	3,260	334	46,695

■ 団体入場者の内訳（昭和55年度）

● 有料団体

区分 / 月別	大人を主とした団体				小人を主とした団体							合計	
	団体数			人数	団体数						人数	団体数	人数
	社会教育諸団体	高校大学ほか	計		青少年団体	小学校	中学校	高等学校校	養護教育諸学校	計			
4	1	3	4	342	22	23	2		1	48	5,772	52	6,114
5		12	12	1,144	41	72	11	3		127	21,165	139	22,309
6		6	6	481	14	13	1	1		29	2,922	35	3,403
7					10	4				14	864	14	864
8	1	2	3	219	11	2		1		14	800	17	1,019
9	1		1	39	6	14	3	1		24	2,460	25	2,499
10	2	1	3	158	8	16	3	2		29	2,788	32	2,946
11		1	1	39	12	16	8	5		41	5,558	42	5,597
12		2	2	137		5				5	813	7	950
1					2	8				10	1,831	10	1,831
2	2		2	65	3	7				10	1,283	12	1,348
3	3		3	213	16	22				38	3,385	41	3,598
計	10	27	37	2,837	145	202	28	13	1	389	49,641	426	52,478

● 無料団体

区分 / 月別	保育所		幼稚園		小学校		中学校		養護教育諸学校		その他（老人クラブほか）		計	
	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数	件数	人数
4			2	291	4	718	2	127	4	118		334	12	1,588
5	11	848	16	1,663	49	8,396	4	706	5	619		1,795	85	14,027
6	11	685	12	1,644	10	4,695	2	16					35	7,040
7					3	231			1	35			4	266
8					1	120			1	74			2	194
9	7	374	4	589	3	570			4	81			18	1,614
10	14	1,097	11	2,618	39	6,043	1	43	4	323			69	10,124
11	6	335	1	159	19	4,427	2	368	2	83	2	203	32	5,575
12					10	2,125			1	21		15	11	2,161
1	1	16	1	95	5	1,038	1	11					8	1,160
2	5	219			14	2,472	3	485					22	3,176
3	30	1,778	6	976	9	1,043							45	3,797
計	85	5,352	53	8,035	166	31,878	15	1,756	22	1,354	2	2,347	343	50,722

Ⅴ　学芸員講師派遣状況

昭和54年度

月　日	氏　　名	講　師　派　遣　内　容	場　　所	依　頼　者
54.5.5	日　浦　　勇	自然保護講座	上ノ口～神峰山寺	高槻公害問題研究会
5.18～5.20	布　谷　知　夫	自然教育セミナー	府総合青少年野外活動センター	大阪青少年活動振興協会
8.7	布　谷　知　夫	自然教室	同　　上	同　　上
9.26	布　谷　知　夫	森林の生態について	府科学教育センター	府科学教育センター
9.28,10.26,11.30	瀬　戸　　剛	植物の形態・分類について	当　　館	同　　上
11.27	両　角　芳　郎	地層観察の指導	岸和田市神於山	岸和田市教育委員会
55.1.25～27	日　浦　　勇	第11回種生物学シンポジウム	茨城大学教育学部	京都大学教養部
2.15	山　西　良　平	大阪湾の海岸生物を中心しした現状	府青少年海洋センター	大阪青少年活動振興協会
2.28～2.29	千　地　万　造 布　谷　知　夫	自然教育のあり方	府総合青少年野外活動センター	同　　上
3.5	千　地　万　造	昭和54年度近畿都市職員専門研修	西区民センター	近畿市長会

昭和55年度

55.5.11	日　浦　　勇	中南信野尻湖友の会総会における普及講演	松本市信州大学	中南信野尻湖友の会
5.30～6.1	布　谷　知　夫	自然教育セミナー	大阪府総合青少年野外活動センター	大阪青少年活動振興会
7.1	瀬　戸　　剛	植物の形態・分類について	館・植物園	府科学教育センター
7.9	山　西　良　平	砂粒間隙動物の抽出と観察	府科学教育センター	〃
7.12	樽　野　博　幸	祖先が狩したケモノたち	府労働センター	大阪文化財センター
7.3	布　谷　知　夫	植物生態学入門	鳴　尾　高　校	鳴　尾　高　校

7.31～8.2	千地万造	夏季理科観察実習会	石川県白山火山帯	岸和田市教育委員会
8.27	柴田保彦	環境科学学習会	西宮市立教育研究所	西宮市立教育研究所
11.26	千地万造	昭和55年度博物館職員研修会	須磨水族館	日本博物館協会
56.2.25～26	日浦　勇	動物生態学	京都大学動物学教室	京都大学理学部
3.2	布谷知夫	自然観察の指導	大阪府総合青少年野外活動センター	大阪青少年活動振興会
3.6	瀬戸　剛	近畿の自然・歴史，自然界の多様性等について	館	尼崎市立中学校理科研究会
3.22	岡本素治	自然観察の指導	高槻市成合	高槻公害問題研究会

Ⅷ　施設の利用状況（自然史に関するもの）

（集会室）12件

月　日	団　体　名	人　数
54. 9. 7	中学校理教育講座	50名
9. 9	阪神わかやま野尻湖友の会	50名
9.23	しだとこけ談話会	40名
9.29	系統生物学シンポジウム	20名
10. 7	シンポジウム環境指標生物	70名
10.27	地学団体研究会大阪支部	50名
11.18	しだとこけ談話会	30名
12. 2	関西トンボ談話会	50名
55. 2. 3	同　上	50名
2.17	兵庫県自然教室	30名
2.24	豊能町教委自然教室	50名
3.23	近畿植物同好会	50名

（講　堂）6件

月　日	団　体　名	人　数
54.12. 2	IGCP 114国内ワーキンググループ	200名
55. 9.14	阪神わかやま野尻湖友の会	150名
56. 2. 1	植物分類地理学会	100名
2. 8	阪神わかやま野尻湖友の会	250名
3.15	同　上	266名
3.28,29	日本植物分類学会	150名

（会議室）16件

月　日	団　体　名	人　数
4.15	石友会	20名
5.13	近畿植物同好会	10名
6.17	日本すみれ研究会近畿支部	20名
6.17	近畿地学会	20名
7.14	大阪微化石研究会	20名
9. 9	日本鳥学会近畿地区懇談会	20名
10.14	石友会	10名
11.17,18	野尻湖昆虫グループ	各10名
11.25	大阪昆虫同好会	20名
12. 1	大阪湾海岸生物研究グループ	10名
12. 2	IGCP 114国内ワーキンググループ	50名
12.16	直翅類研究グループ	20名
55. 1.20	大阪湾海岸生物研究会	15名
1.26	淀川問題検討委員会	8名
3.16	関西トンボ談話会	30名
3.30	大阪昆虫同好会	20名

（実習室）3件

月　日	団　体　名	人　数
54.11,18,17	野尻湖昆虫グループ	10名
55. 1. 5	野尻湖花粉グループ	17名
3.22	大阪湾海岸生物研究会	15名

○大阪市立自然史博物館条例

制　　定　昭49. 4. 1　市条例 39
最近改正　昭56. 4. 1　市条例 53

大阪市立自然科学博物館条例（昭和32年大阪市条例第38号）を次のように改正する。

（設　置）

第1条　大阪市立自然史博物館(以下「博物館」という。)を大阪市東住吉区長居公園に設置する。

（目　的）

第2条　博物館は，自然史に関する科学について，資料を収集し，保管し，展示するとともに，その調査研究及び普及指導を行い，市民の教養文化の向上に寄与することを目的とする。

（事　業）

第3条　博物館は，前条の目的を達成するため，次に掲げる事業を行う。

(1) 実物，標本，文献，図書，図表，写真，フイルム等（以下「博物館資料」という。)の収集，保管，展示及び閲覧

(2) 自然史に関する科学についての調査研究及び博物館資料の保管，展示等に関する技術的研究

(3) 展覧会，講習会，実習会，研究集会等の開催及び指導

(4) 博物館資料に関する同定及び指導

(5) 博物館資料の貸出及び交換

(6) 他の博物館，学校，学会その他の関係機関との連絡及び協力

(7) その他必要な事業

（観覧料）

第4条　博物館の展示場に入場しようとする者は，観覧料を納付しなければならない。ただし，6歳未満の者は，この限りでない。

2　観覧料は，次の範囲内で教育委員会が定める。

区　　分	観　　覧　　料		
16歳未満の者	1人	1回	70円
16歳以上の者	1人	1回	150円

3　特別の展示をしたときの観覧料は，教育委員会が定める。

（施設の使用及び使用料）

第5条　自然史に関する科学についての講演会，講習会その他に関し，博物館の講堂を使用しようとする者は，教育委員会の許可を受けなければならない。

2　前項に規定する使用の許可を受けた者（以下「使用者」という。)は，1日につき，15,000円以内で教育委員会の定める使用料を前納しなければならない。

3　使用者が附属設備を使用しようとするときは，教育委員会が定める使用料を前納しなければならない。

（観覧料等の減免）

第6条　教育委員会が公益上その他必要と認めるときは，観覧料又は使用料を減免することがある。

（観覧料等の還付）

第7条　既納の観覧料又は使用料は還付しない。ただし教育委員会が特別の事由があると認めるときは，その全部又は一部を還付することがある。

（職　員）

第8条　博物館に，館長その他必要な職員を置く。

（施行の細目）

第9条　この条例の施行について必要な事項は，教育委員会が定める。

附　則〔昭49. 4. 2 施行告示120〕

この条例の施行期日は，市長が定める。

附　則〔昭51. 4. 1 条例61〕

この条例は，公布の日から施行する。

附　則〔昭55. 11. 27 条例48〕

この条例は，公布の日から施行する。

附　則〔昭56. 4. 1 条例53〕

この条例は，公布の日から施行する。

別表第1

区　　分		使　用　料		
		午　前	午　後	全　日
講　　堂		6,000円	9,000円	15,000円
附属設備	冷房設備	3,000円	4,500円	7,500円
	暖房設備	3,000円	4,500円	7,500円

備　考

この表中「午前」とは午前9時30分から正午まで，「午後」とは午後1時から午後4時30分まで，「全日」とは午前9時30分から午後4時30分までとする。

○大阪市立自然史博物館規則

制　　定　昭49. 4. 26（教）規則 12
最近改正　昭56. 4. 1（教）規則 17

大阪市立自然科学博物館規則（昭和32年大阪市教育委員会規則第16号）を次のように改正する。

（開館時間）

第1条　自然史博物館（以下「博物館」という。）の開館時間は，午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし，都合により変更することがある。

（休館日）

第2条　博物館の休館日は，次のとおりとする。ただし都合により変更し，又は臨時に休館することがある。

(1)　月曜日

(2)　国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（その日が日曜日にあたるとき，又はその日が特別の展示をする日にあたるときで必要があると認める場合は除く。）

(3)　12月28日から翌年1月4日まで

（入館の制限）

第3条　次の各号の1に該当する者に対しては，入館を断り，又は退館させることがある。

(1)　伝染性の病気にかかっている疑いのある者

(2)　他人に迷惑となる行為をする者

(3)　資料又は施設を損傷するおそれがある者

(4)　他人に危害を及ぼし，若しくは他人に迷惑となる物品又は動物を携行する者

(5)　管理上必要な指示に従わない者

(6)　その他支障があると認める者

（観　覧）

第4条　博物館の展示場に入場しようとする者は，観覧料を納付して観覧券の交付を受けなければならない。

2　観覧券の交付は，閉館時刻の30分前までとする。

（観覧料）

第5条　大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号。以下「条例」という。）第4条第2項の規定による観覧料は，次のとおりとする。

区　　分	観　　覧　　料		
16歳未満の者	1人	1回	70円
16歳以上の者	1人	1回	150円

2　条例第4条第3項の規定による観覧料は，1人1回につき，500円以内でその都度教育長が定める。

（使用の申込み）

第6条　条例第5条第1項の規定によって，講堂の使用許可を受けようとする者は，所定の様式により，申し込まなければならない。

（使用の制限）

第7条　次の各号の1に該当するときは，講堂の使用許可をせず，又は許可を取り消し，若しくは使用を停止することがある。

(1)　公安又は風俗を乱すおそれがあるとき

(2)　営利を目的とするとき

(3)　建物，設備又は展示品を損傷するおそれがあるとき

(4)　管理上支障があるとき

(5)　その他不適当と認めるとき

（使用料）

第8条　条例第5条第2項及び同条第3項に規定する使用料は，別表第1のとおりとする。

（観覧料等の減免及び還付）

第9条　観覧料又は使用料の減免及び還付は，教育長が行う。

（資料等の利用）

第10条　資料及び施設の利用については，教育長が定める。

（損害賠償）

第11条　資料又は施設を損傷又は滅失させた者は，教育委員会の指示によりこれを原状に復し，代物を弁償し，又はその損害を賠償しなければならない。

（資料等の寄贈及び寄託）

第12条　博物館に，資料等を寄贈若しくは寄託し，又は寄託物の返還を請求しようとする者は，教育委員会に申し出なければならない。

（寄託資料等の取扱い）

第13条　寄託を受けた資料等は，特別の契約がある場合のほか，本市所有のものと同じ取扱いをする。

（寄託資料等の免責）

第14条　寄託を受けた資料等が，災害その他の不可抗力によって滅失又は損傷した場合，本市は損害賠償の責めを負わない。

（施行の細目）

第15条　この規則の施行について必要な事項は，教育長が定める。

附　　則

この規則は，昭和49年4月27日から施行する。

附　則（昭51. 4. 1（教）規則15）

この規則は，公布の日から施行する。

附　則（昭56. 4. 1（教）規則17）

1　この規則は，公布の日から施行する。

2　この規則の施行の際現に大阪市立自然史博物館条例（昭和49年大阪市条例第39号）第5条第1項の許可を受けている者の当該使用許可に係る使用料の額については，この規則による改正後の大阪市立自然史博物館規則第8条の規定にかかわらず，なお従前の例による。

○大阪市立自然史博物館観覧料減免要綱

第1条 この要綱は，大阪市立自然史博物館条例第6条及び大阪市立自然史博物館規則第9条の規定による観覧料の減免について定めることを目的とする。

第2条 自然史博物館に入場する者が，長居植物園の入園券を呈示したときは博物館観覧料との差額を徴収する。

第3条 博物館の入場者が30人以上の団体であるときは次の各号に定める割合の観覧料を減額する。

(1) 入場者が 30人以上の団体のとき1割

(2) 入場者が 50人以上の団体のとき2割

(3) 入場者が100人以上の団体のとき3割

第4条 本市及び八尾市内の保育所，幼稚園，小学校（大阪市立弘済小学校及び大阪市立長谷川小学校を含む），中学校（大阪市立弘済中学校及び大阪市立羽曳野中学校を含む），盲学校，聾学校及び養護学校（以下「保育所等」という。）の保母及び教員が，保育所等の幼児，児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときは，保母，教員，幼児，児童及び生徒の観覧料を免除する。

2 前項以外の盲学校，聾学校及び養護学校の教員が，児童又は生徒を引率して博物館に入場しようとするときは，前項に準ずる。

第5条 生活保護法（昭和25年法律第144号），児童福祉法（昭和22年法律第164号），身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号），精神薄弱者福祉法（昭和35年法律第37号），又は老人福祉法（昭和38年法律第133号）に規定する社会福祉施設の職員が，当該施設の入所者（当該施設に収容された者も含む）を引率して博物館に入場しようとするときは，職員，入所者及び介護者の観覧料を免除する。

第6条 公益上その他特別の事由があると認めるときは減免する。

2 身体障害者手帳，精神薄弱者（児）認定カード，療育手帳，被爆者健康手帳及び戦傷者手帳等の所持者及び介護を必要とする者が博物館に入場しようとするときは，所持者及び付添人の観覧料を免除する。

附　則

この要綱は，昭和49年4月27日から施行する。

附　則

1 この要綱は，昭和49年11月1日から施行する。

2 昭和49年10月31日までに使用の申し込みをした者については，改正後の規定にかかわらず，なお従前の例による。

附　則

この要綱は，昭和53年10月1日から施行する。

附　則

この要綱は，昭和56年4月1日から施行する。

■ 館の利用

開館時間	午前9時30分～午後4時30分（ただし，入館は午後4時まで）
休館日	月曜日，祝日（ただし，日曜日と重なる祝日は開館）年末年始（12月28日～1月4日）
入館料	大人150円，小人（16才未満）70円，6才未満無料（団体割引：30人以上1割，50人以上2割，100人以上3割）
講堂・集会室等の利用	本館の事業目的に添った集会，催しについて利用できる。
道順	● 地下鉄御堂筋線「長居」下車，東へ徒歩 800m（約15分） ● 国鉄阪和線「長居」下車 東へ 徒歩 1000m（約15分） ● 市バス「長居東6丁目」 下車 北へ 200m（約3分）
所在地	〒546 大阪市東住吉区長居公園1—23 電話（06）697—6221（代）
団体入館申込の方法	① 団体入館の場合は，あらかじめ電話等で連絡し，日時をとって下さい。 ② 引率者は，日時をとってから，引率指導のため，一度下見に来て下さい。（入館料無料） ③ 学校関係の引率者用に，パンフレット「引率の先生方に」を発行しています。（無料） ④ 入館料は，入館当日にいただきます ⑤ 大阪市及び八尾市内の小中学校，養護教育諸学校，幼稚園の先生が，校外学習の一環として園児・児童又は生徒を引率して入館される場合に無料になっています。事前に入館日時をとり「観覧料減免申請書」を提出して下さい。
自然(史)科学に関する質問の受付	自然（史）科学に関する質問にお答えします。電話または，本館普及センターまでおこし下さい。
野外行事など各種の普及行事	自然に親しみ，自然への理解を深めるための社会教育活動として各種の野外観察会実習，講演会，映画会などの行事を開催しています。普及係までお問い合わせ下さい。

I 施　　設

■ **所在地**　大阪市東住吉区長居公園1番23号

■ **建築面積**　4,392.67㎡

■ **延床面積**　7,066.01㎡

■ **構　造**　鉄筋コンクリート造，一部屋根鉄骨造
地下1階，地上3階

■ **主要各室面積・天井の高さ**

（展示用施設）	計 2,427.48㎡	
		（天井の高さ）
オリエンテーション・ホール	550.35㎡	11.00m
第1展示室	360.55㎡	3.30m
第2展示室	486.64㎡	7.20m
第3展示室	403.10㎡	4.70m
特別展示室	360.55㎡	4.20m
2階ギャラリー	266.29㎡	6.80m
（研究用施設）	計 1,802.82㎡	
館長研究室・暗室	各18.27㎡	2.70m
動物・昆虫・植物・地史研究室	各47.56㎡	2.40m
第四紀・外来研究室	各36.54㎡	2.40m
生物実験室	49.20㎡	2.40m
化学分析室・くんじょう室	各18.27㎡	2.40m
電子顕微鏡室	37.43㎡	2.70m
動物標本製作室	37.71㎡	2.40m
昆虫・植物標本製作室	各36.54㎡	2.40m
化石処理室	47.56㎡	2.40m
石工室	22.21㎡	2.70m
展示品製作室	28.05㎡	2.70m
第1収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第2収蔵庫	310.08㎡	3.00m
第3収蔵庫	207.09㎡	3.00m
第4収蔵庫	310.08㎡	3.00m
書　庫	100.30㎡	7.40m
編集記録室	36.54㎡	2.40m
（普及教育用施設）	計 604.27㎡	
講堂（映写室・控室含む）	319.09㎡	2.60m（平均）
普及センター	93.30㎡	2.70m
集会室	95.12㎡	2.70m
実習室	96.76㎡	2.70m
（管理用施設）	計 870.95㎡	
館長室	36.54㎡	2.70m
事務室	83.34㎡	2.70m
応接室	29.54㎡	2.70m
宿直室	16.85㎡	2.55m
守衛室	17.64㎡	2.70m
会議室	47.56㎡	2.70m
機械室	472.35㎡	5.85m
電気室	89.92㎡	5.85m
自家発電機室	49.16㎡	5.85m
中央監視盤室	28.05㎡	2.40m
（共通部分）	計 1,360.49㎡	
1階廊下	118.27㎡	2.70m
2階廊下	102.29㎡	2.40m
ロッカールーム	60.59㎡	2.85m
エレベータホール	123.16㎡	
ファンルーム（南・北側）	各16.80㎡	
荷捌室	161.69㎡	2.70m
玄関ホール	132.10㎡	3.25m
倉　庫	106.56㎡	
1階ホール便所	76.26㎡	
2階ホール便所	37.56㎡	
管理検便所	43.47㎡	
ダクトスペース	102.70㎡	
階　段	179.30㎡	
その他	82.94㎡	
	総計 7,066.01㎡	

■ **階数別面積**

地階……855.07㎡　　3階……550.95㎡
1階……3,178.35㎡　　屋階…… 76.93㎡
2階……2,404.71㎡

■ **各室定員**

講　堂…… 266人　　集会室……48人
会議室……22人　　実習室……31人
展示室（1階）415人　　展示室（2階）400人
地　階……3人

■ **工　　期**　昭和47年1月21日～昭和48年3月31日

■ **総事業費**　10億 1,000万円

（建設工事費）　7億 9,500万円
・本体工事（㈱竹中工務店）　491,735千円
・付帯工事　302,818千円

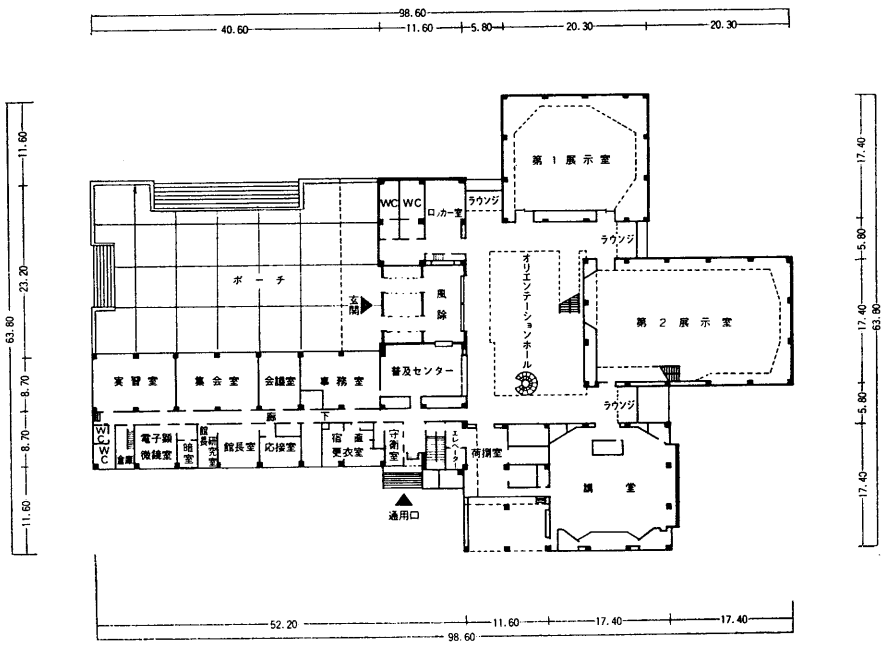
（設計監督委託料）　2,700万円

（内部設備費）　1億5,000万円
・内部備品　76,000千円
・第1展示室ディスプレイ（㈱日展）21,999千円
・第2展示室ディスプレイ（㈱乃村工芸社）24,978千円
・第3展示室ディスプレイ（㈱丹青社）21,090千円
・オリエンテーションホールディスプレイ（㈱電電広告）6,090千円

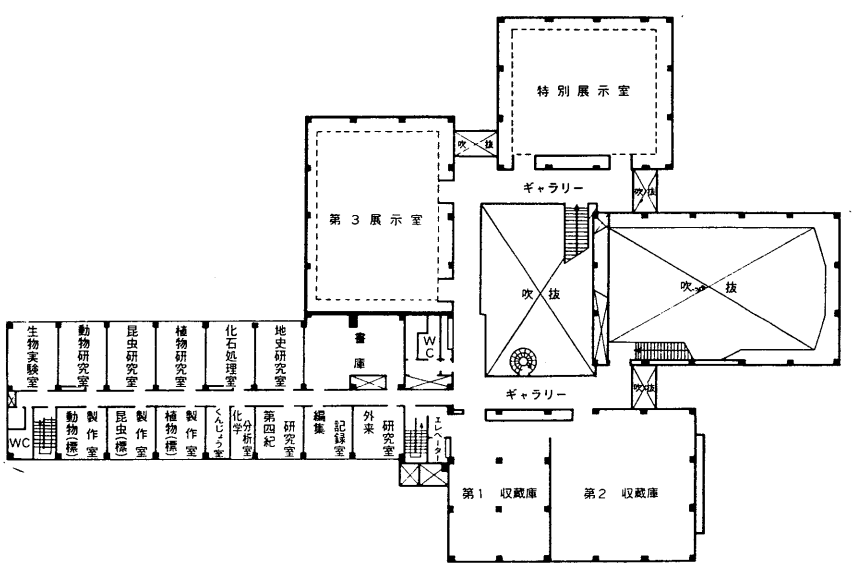
（その他）　　3,800万円
事務費，移転費（5,500千円）　公園樹木移設工事費（4,200千円）

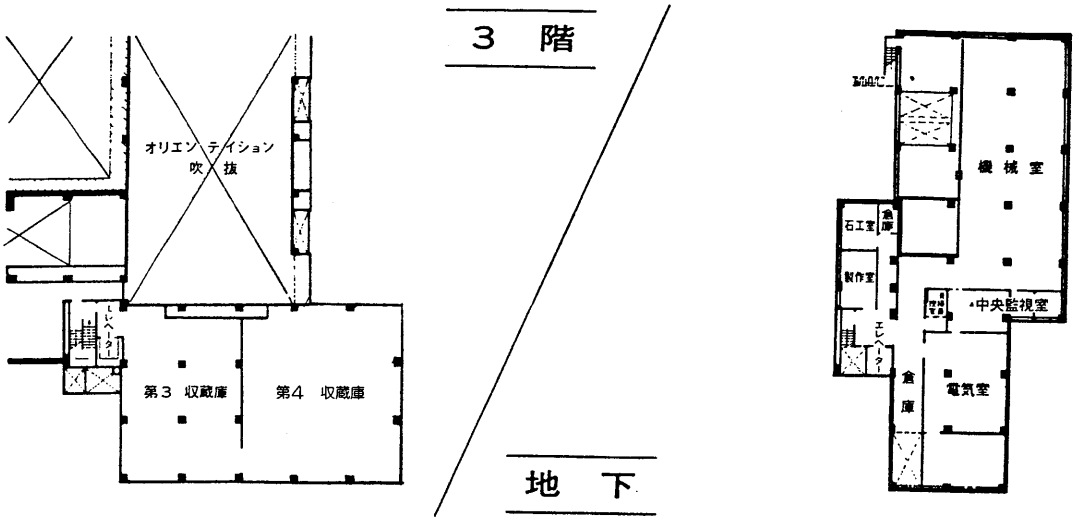
■ 国庫補助金・起債
・国庫補助金 3,000万円（47.10.13付交付決定）
・起　債　3億8,762万円（47. 8.25付交付決定）

1　階

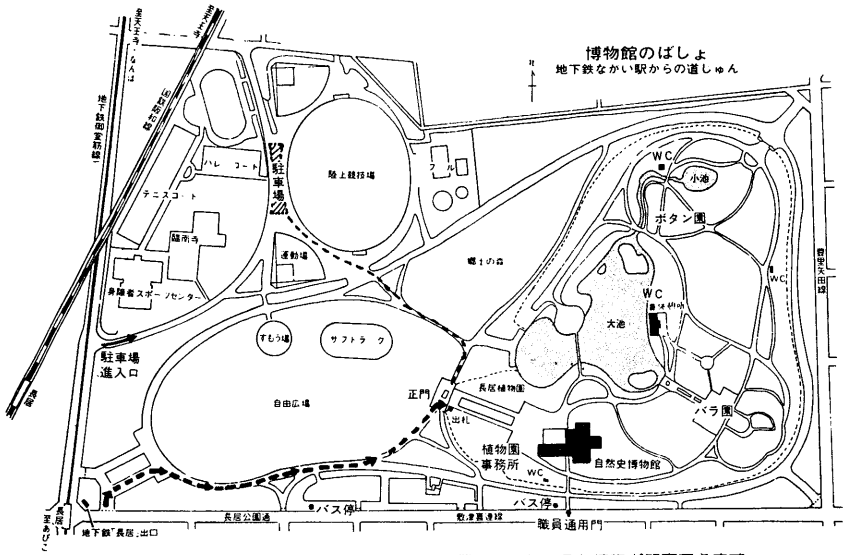


2　階





（自然史博物館付近見取図）



郷土の森では日本各地の樹木、長居植物園ではいろいろな植物が観察できます。

MEMO

タカダ印刷 791 — 0034

ANNUAL REPORT

of the

Osaka Museum of Natural History

for the year

1979 and 1980

Nagai Park, Higashi-Sumiyoshi-ku, Osaka, 546 Japan